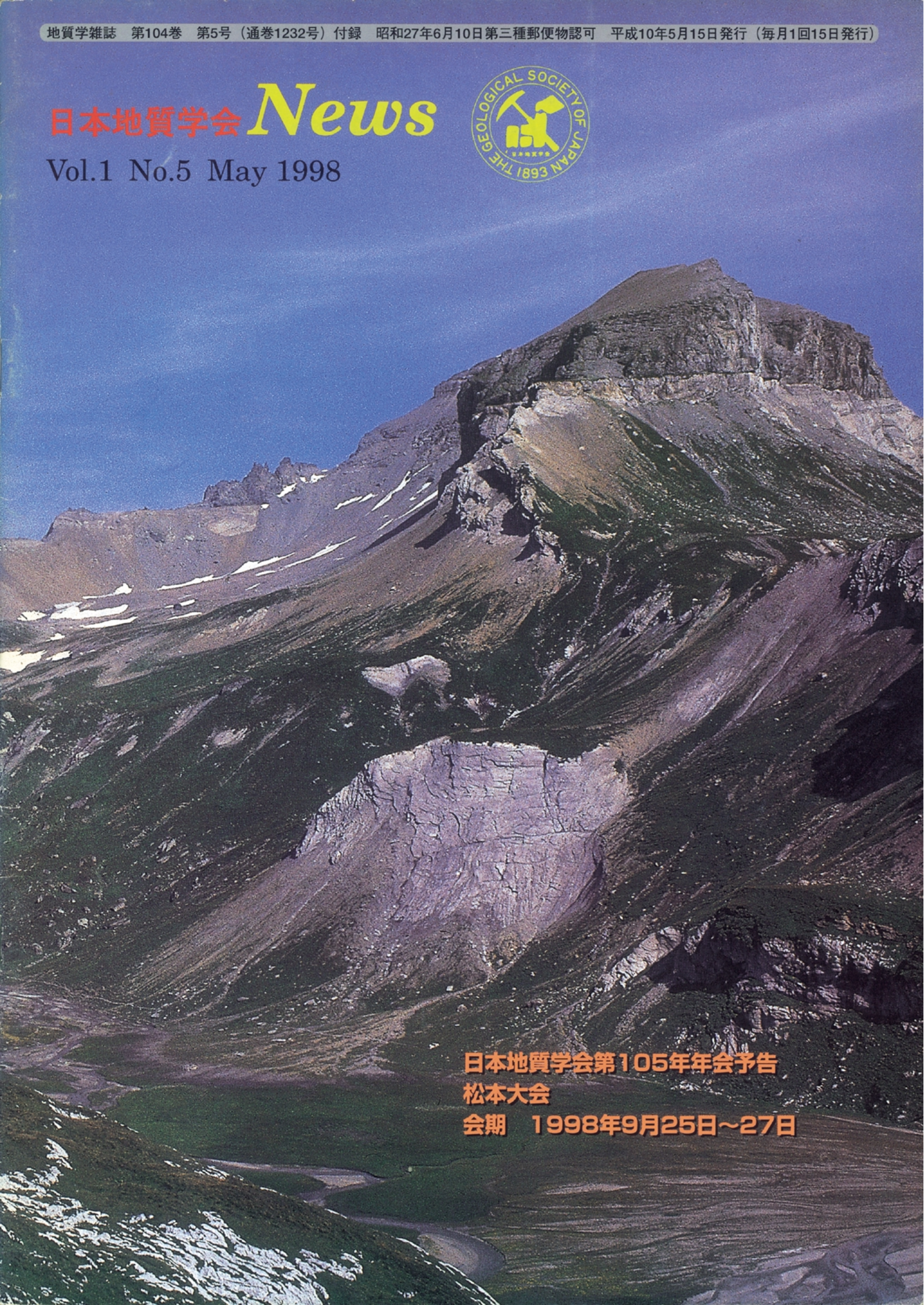
地質学雑誌　第104巻　第5号（通巻1232号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成10年5月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.1 No.5 May 1998



日本地質学会第105年年会予告
松本大会
会期　1998年9月25日～27日

日本地質学会 *News*

Vol.1 No.5 May 1998

The Geological Society of Japan *News* 日本地質学会／〒101−0044 東京都千代田区鍛冶町1−10−4 丸石ビル
電話 03−3252−7242 Fax 03−5256−5676 E-mail : geosocjp@ra2.so-net.or.jp ホームページ http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gsj/

Contents

日本地質学会第105年年会予告 松本大会
会期1998年9月25日〜27日……2–15

野外調査でのエキノコックス感染にご注意を！―かわいいキツネと犬が媒介する恐い寄生虫 三田直樹……16–17
博物館だより……17
博物館紹介⑩ 信州新町化石博物館 成田 健……18–19
ホームページの紹介⑨ 海洋科学掘削計画（Ocean Drilling Program）のページ 中田節也……20
賛助会員のページ 川崎地質株式会社 片山哲哉……21
地学英語雑感③ 良いセンテンスをつくる―1 嶋﨑吉彦……22

紹 介……23
周藤賢治・牛来正夫著：地殻・マントル構成物質
ご案内……23–26
IGCP 350 “Cretaceous Environmental Change in E & Asia” : Final International Symposium and Field Meeting/バイカル湖研究に関する国際シンポジウム開催/INTERNATIONAL SYMPOSIUM:『The Ryukyu Islands : the arena of adaptive radiation and extinction of island fauna』国際シンポジウム『琉球列島（南西諸島）―島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台―』/第5回テチス浅海域に関する国際シンポジウム2nd Circular配布のご案内/モンゴルで開催された「1998年生層序学会議」について
公募……25–26
大阪工業大学教官公募/通商産業省工業技術院研究職選考採用者の公募について/東京大学大学院理学系研究科地球惑星物理学専攻教官公募

委員会報告……26
日本学術会議第17期第2回鉱床学専門委員会議事録

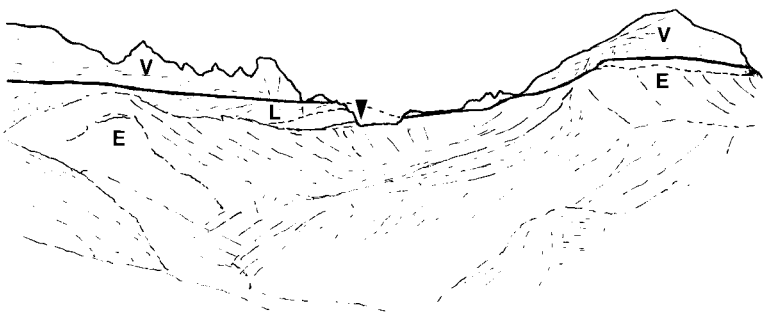
地質学論集新刊案内 第49号「21世紀を担う地質学」/第51号「地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―」……27–28
学会だより：「地質学関連の国立研究機関の組織・調査研究活動の強化に関する要望書」と「岡山県阿哲郡大佐町の2つの露頭の保全に関する要望書」提出について……29–30
委員会だより：女性地球科学者の未来を考える研究委員会；八甲田集会のお知らせ……31
専門部会コーナー：構造地質；構造地質研究会第1回日韓合同大会のお知らせ……31
院生コーナー開設のお知らせ：若手研究者のネットワーク作りを……32
関連学協会コーナー：日本古生物学会行事予定……32

追 悼 秦 光男さんのご逝去を悼む……33

カレンダー……34
The Island Arcだより……35
1998年度新役員紹介……36–37
執行委員会だより 1998年度第2回執行委員会……38
1998年第2回定例評議員会のお知らせ（傍聴）……38

表紙解説

スイスアルプス，グラールスの押し被せ断層（Glarus overthrust）



Flims北方Segnas峠（写真中央矢印）の写真（地質雑，第98巻，5月号口絵参照）．ほぼ水平な断層面を境に，始新世のフリッシュ堆積物（E）の上位に，山体のピークを構成するペルム紀の火山角礫岩（Verrucano : V）が乗っている．両者の境界部には厚さ数mの中生代のLochseiten石灰岩マイロナイト（L）が挟まれており，ナップ移動の潤滑剤の役割を演じたと考えられている．断層面の平均傾斜は約8 °N，少なくとも北方へ40km移動したと考えられている．1791年にWilliam Smithにより定立された地層累重の法則が，斉一説を主張したCharles LyellのPrinciples of Geologyによって広まって間もない1840年に，スイスの地質学者Arnold Escherがこの“逆転”を明らかにし，アルプスの構造地質学の礎を築いた．

1989年8月21日撮影．

（早稲田大学教育学部地学教室 高木秀雄）

表紙デザイン：渡部芳夫 レイアウト：村松雅子

日本地質学会第105年年会予告

松 本 大 会

会期　1998年9月25日〜27日

1998年年会のご案内をいたします．松本は，1976年4月以来23年目，準備委員会のご努力で初秋の好シーズンに開催できることになりました．年会もさまざまに試行を重ねておりますが，今回は従来型のシンポジウムは行われず，一般発表の場として53のセッションが設けられることになりました．そのほか，普及行事として，地元ならではのものも準備されていますので，多数の参加を期待しています．なお，例年各種の申込等で締め切り日が守られないことによる支障もでております．夏休みにもかかりますので，予定はなるべく早めにたてて，くれぐれも締め切り日を厳守されますようお願いいたします．

1.　日　　程

9月25日（金）：一般発表，企業等団体展示会，専門部会ランチョン，懇親会

9月26日（土）：一般発表，市民講演会「地球の不思議にせまる」，企業等団体展示会，甲信越地質情報展「ザ・フォッサマグナ」，専門部会ランチョン

9月27日（日）：一般発表，企業等団体展示会，甲信越地質情報展「ザ・フォッサマグナ」，専門部会ランチョン，

9月28日（月）〜30日（水）見学旅行

2.　会　　場

信州大学共通教育センター講義棟（市民講演会のみ経済学部大講義室）（松本市旭3–1–1）

3.　普及行事

(1)　市民講演会「地球の不思議にせまる」　9月26日（土）13：00〜16：00

主催：日本地質学会（科研費補助金研究成果公開発表（B）による講演会）

会場：信州大学経済学部大講義室

①　塚原弘昭（信州大）「信州の活断層と地震」

②　下山　晃（筑波大）「隕石から見た生命の起源」

(2)　甲信越地質情報展「ザ・フォッサマグナ」9月26日〜9月27日　9：00〜17：00

主催：地質調査所，日本地質学会，信州大学理学部

内容：小学校高学年から一般まで楽しめる地質の展示や体験コーナーを設置し，地質学への親しみを広げる企画です．昨年の福岡大会では大盛況でした（地質学会News，1月号，地質ニュース98年2月号参照）．今回はフォッサマグナ地域を対象に行います．プレゼントも多数用意します．

☆出展募集：賛助会員や本年会の協賛企業，大学，地方自治体等の方々からも本企画に適った展示・体験コーナーへの出展を歓迎します．6月30日までに下記へご連絡．お申し込みをして下さい．

〒305–8567　つくば市東1–1–3　地質調査所　統括研究調査官　有田正史

電話　0298–54–3721，Fax　0298–54–3546

昨年の出展例：福岡県（応用地質(株)協力）による「福岡市中心部を通る警固断層のはぎ取り」，九州活断層研究会（昭和地下工業(株)ほか3社）による「鹿児島県北西でおこった地震の被害」．

(3)　企業等団体展示会　9月25日〜27日　9：00〜17：00

☆出展募集：賛助会員や本年会への協賛企業の活躍を，一般市民や地質学会員に広める場を提供します．参加・展示希望の企業や団体は，6月30日までに下記へご連絡・お申し込みをお願いします．

〒390　松本市旭3–1–1　信州大学理学部地質科学科　吉田孝紀

電話　0263–37–2517, Fax　0263–37–2506

(2)の「ザ・フォッサマグナ」では，小学校高学年〜中学生にでも理解できるような，企業の活動内容に基づいた地質学の内容をわかりやすく紹介する展示・体験コーナーを期待しています．また，(3)の「企業等団体展示会」では企業の活動内容に中心をおいて，一般市民や地質学会会員向けの展示をしていただきます．両方の会場は隣り合った広い会場を用意する予定ですので，見学者で賑わうことが予想されます．

4.　一般発表の募集について＜〆切　6月30日＞

下記の要領にて一般発表（口頭，ポスターセッション）を募集します．とじ込みの往復はがきの（A）「一般発表申込書」に必要事項を記入し，6月30日（火）必着で行事委員会（東京）あてにお送りください．〆切り日以降の到着分については受け付けません．切手は往・復ともに貼り，返信には住所，氏名を忘れずに書いてください．返信用はがき（B）の受理通知は，プログラム編成が終わり次第，なるべく早くお手元に届くようにお送りする予定です．

なお，発表セッション・会場等のプログラム編成に関しては，各セッションのコンビーナーの協力を得て，行事委員会が決定します．

(1) セッションについて

本年の年会では，9月25日（金）～27日（日）の3日間にわたり，セッションによる一般発表（口頭・ポスターセッション）のみが行われます．専門部会等からの応募などにより53のセッションを設けました（表1.参照）．発表を希望される会員は，このセッションの中からいずれか1つを選んでお申し込み下さい．なお，口頭あるいはポスター発表のいずれか一方だけのセッションもありますので，発表方法を決める際にはご注意下さい．

(2) 発表に関する条件

日本地質学会の会員は，口頭発表かポスターセッションのいずれかの方法で，1人1題に限り発表を行うことができます．共同発表の場合は上記条件を講演者（＝筆頭発表者）に適用します．また，各セッションの招待講演者となった会員は，招待講演とは別に，前記口頭発表かポスターセッションのいずれかの方法で，1題の発表を行うことができるものとします．招待講演者は日本地質学会会員に限りません．

(3) 発表申込書記入の注意

①すべての項目について楷書ではっきりと書いてください．

②共同発表の場合は全員の姓名を完記してください．所属は不要です．

③発表方法については，「口頭」，「ポスターセッション」，「どちらでもよい」，のいずれかを選択してください．ただし，申し込み〆切後に変更することはできません．

④発表を希望するセッションを第3希望まで選び，それぞれの番号と略称を記入してください．セッションによっては対象とする地域の記入を要求するものがあります．その場合は，次行のコメント欄に国名，県名等を記入してください．また，関係する一連の発表がある時は，その順番希望等もこの欄に記入してください．

⑤発表題目，発表者の確認通知はしませんので，各自手元に控えを必ず残しておいてください．

⑥招待講演を除いて，非会員は筆頭発表者になれません，必ず6月30日までに入会手続きを行ってください．

(4) 発表要領

★口頭発表

①講演時間は1題あたり15分（討論時間を含む）です．講演者は討論時間がなくならないよう，余裕をもって講演を行ってください．

②スライド（35mm判，15枚以内）とオーバーヘッドプロジェクターとの併用ができますが，持ち時間を充分に考慮して構成してください．ビラの使用はできません．

③スライドを使われる方は，指定時間までにスライドをお持ちください．その際，スライドプロジェクターに挿入時の位置で，スライドの右肩に赤丸印をつけてください．また，各スライドには講演番号，氏名を記入してください．

★ポスターセッション

①1題について1日掲示できます．掲示時間は8時45分～17時です．各日13～14時のコアタイムには原則として発表者はその場に立ち会い，説明するものとします．

②ボード面積は縦180cm，横90cmを予定しています．

③発表番号・発表題名・発表者名をポスター中に明記してください（これらを含んだタイトルを作るのが望ましい）．

④セッションによっては，当該セッションの口頭発表時間の中で，ポスターセッションの内容を口頭で紹介する時間を設定しています．この場合1題あたりの持ち時間は2分です．スライド，オーバーヘッドプロジェクターが使えます．スライドを使われる方は，口頭発表に従ってスライドを準備してください．

(5) 発表者の変更について

予め連記されている共同発表者内での変更は認めますが，必ず事前に行事委員会へ連絡してください．この場合も，新講演者（＝新筆頭発表者）について，(2)の条件が適用されます．

(6) 口頭発表の座長の依頼について

セッションによっては各会場の座長を参会者にお願いすることになります．プログラム印刷の都合上，早急な座長依頼を差し上げることになりますので，その際はぜひお引き受けください．

5. 講演要旨原稿の提出について ＜〆切 8月15日＞

要旨集はA4判の印刷物になります．一般発表者の原稿割当は1枚（p.5フォーマット参照），印刷は0.5ページ分です．1ページに2件分ずつ印刷します．原稿はそのまま版下として用い，印刷の際に縮小しますので，文字サイズ，字詰めおよび原稿の鮮明度には充分にご配慮下さい．原稿の〆切は8月15日（土）必着厳守です．ファクシミリ送信による原稿は印刷用版下としては使用できませんので，必ずオリジナルか鮮明にコピーしたものを1枚お送り下さい．

6. 見学旅行参加申し込み要領 ＜〆切 7月31日＞

今回は13コースの見学旅行を計画しました（表2参照）．参加ご希望の方はとじ込みの往復ハガキ（C）により7月31日までに準備委員会 信州大学）あて申し込んで下さい．申込みのハガキには往・復とも50円切手を貼って出して下さい．折返し受け付け通知を出しますので，それを確認した上で，旅行費用全額を本号とじ込みの振替用紙にて9月11日までにご送金下さい．7月31日以降8月31日までに取り消された場合には一律1000円の取消手数料を，9月1日（火，消印）以降に取り消された場合には，各班所定の取り消し手数料（一覧中のカッコ内の数字）をいただくことになります．また，申込みに際し希望の班が満員の場合に備え，①8月31日までのキャンセル待ち，②第2，第3希望の班の指定，③他班希望無しキ

ャンセル待ちせず，のいずれかを必ず指定して下さい．参加者の少ない班については中止をせざるを得ない場合もありますので，予定が決まり次第早めにお申し込み下さい．非会員の参加については，申込み〆切時点で定員に余裕があれば可能ですので，予めお申し込みおき下さい．

7. **夜間小集会の申込要領　＜〆切　6月30日＞**

9月26日・27日（18：00～20：00）に夜間小集会の開催を希望する方は，①集会の名称，②世話人氏名，③集会内容（極く簡単に），④参加者予定数，⑤プロジェクター（スライド，OHP）の要・不要，⑥その他特記すべきことをハガキに明記し，行事委員会（東京）あてに申し込んで下さい．申込〆切は6月30日です．なお，世話人の方は，会終了後に地質学雑誌の大会記事として原稿（800字以内）をお寄せください　（原稿10月30日〆切）．

8. **講演要旨頒布（予約）について　＜〆切　9月11日＞**

講演要旨は原則として予約頒布です．残部があれば予約以外の方にもお頒けしますが，例年2日目の午前中には売り切れとなり，結果的には皆様にご迷惑をおかけすることが多くなりました．参加・不参加にかかわらず，購入予定の方は，必ず予約購入をして下さるようお願いいたします．お申し込みとご送金は本号とじ込みの振替用紙にて9月11日（金，消印有効）までにお願いいたします．会場受取でご予約下さった方には引換券をお送りします（9月16日頃より発送予定）ので当日は引換券を必ずご持参下さい．また，できあがりが会期の直前になるため，郵送で予約の場合，会期前にお送りすることはできません（会期後10月になってからの発送予定）．参加予定の方は郵送ではなく，必ず会場受取でお申し込みください．なお，受取方法を変更される方はできるだけ事前にご連絡下さい．

前金予約　①会 場 受 取：会員3,000円，非会員4,000円
②会期後送付：会員3,500円，非会員4,500円（含送料）会期には間に合いません．
※複数送付注文の場合の送料は，それぞれ下記のようになります．（1部3,000円×部数+送料）
2部：600円，3部：800円，4部：1,000円，5部：1,200円

予約外（当日売り）：会員3,500円，非会員4,500円

9. **懇親会参加申し込み要領　＜〆切9月4日＞**

懇親会は9月25日（金）午後6時から8時まで，松本市社会文化会館（講演会場より徒歩15分，バス5分）で行います．会費は正会員5,000円，院生・学生会員および名誉会員，会員の家族は3,000円です．準備の都合上，前金制の予約参加としますので，できるだけ予約をして下さい．余裕があれば当日参加も可能ですが，会費はそれぞれ1,000円ずつ高くなります．予約はとじ込みのハガキで（C，見学旅行申し込みと兼用）で9月4日までに申し込みをして下さい．会費はとじ込みの振替用紙にて9月11日（金）までにご送金下さい．参加取り消しの場合に，会費の返却はしませんのでご了承下さい．なお，非会員の会費は会員に準じます．

10. **展示・販売関係申込要領　＜〆切　8月30日＞**

年会開催期間中の展示・販売関係は，9月25日・26日・27日（会場：共通教育センター）の3日間とします．問い合わせおよび申込は8月30日までに直接準備委員会（信州大学，担当：森清・吉田）へお願いします．

11. **参加登録費　＜会場で徴収します＞**

参加登録費は正会員と一般の非会員から下記のとおり徴収します．参加者は当日会場受付でお支払い下さい．

正会員：2,000円，　非会員（一般）：3,000円，　＊院生会員・学生会員（学生非会員も含む）・名誉会員：無　料

12. **保育所の開設について　＜利用申込〆切　8月10日＞**

25～27日の松本大会開催中，幼児を預かる臨時保育所の開設を予定しています．正規のベビーシッターの派遣を(有)サンドリーム（ミッキーハウス）に依頼します．概要は次のとおりです．1）経費は基本的に利用者の負担とし，1人あたり3,000円/半日の利用料金を見込んでいます．2）預かる幼児の年齢は1歳から6歳まで．3）時間は朝9時～午後1時，及び午後1～5時までの半日単位．4）食事は保護者の責任とする．5）万一の場合の補償はベビーシッター総合補償制度の範囲内での対応となり，日本地質学会としてはそれ以上の責任は負いかねますことをあらかじめご承知おきください．6）保護者は緊急時の連絡用として携帯電話を必ずお持ち下さい．有料（1000円/半日）で貸し出しもします．利用者数を事前に把握する必要がありますので，予約制とさせていただきます．8月10日までに，保護者氏名，連絡先，子供の氏名，年齢（月数まで），利用日（午前・午後の区別），携帯電話借用の有無を明記して，準備委員会事務局庶務係宛（担当　公文）にファックスか電子メールで申し込んでください．申し込んだ方にはより詳しい案内を差し上げます．なお，利用申込者が1日2人以下の場合には経費がかさみますので，保育所の開設を中止する場合があることもご承知おき下さい．

13. **準備委員会組織**

諸連絡の代表窓口は庶務係の公文富士夫（電話　0263–37–2479, Fax　37–2506）です．それぞれ担当が決まっていますので，係りに直接ご連絡も可能です．担当者が複数の場合は筆頭が責任者となります．氏名の次のカッコ内は連絡先で（電話番号；e-mail）です．とくに指定のない限り電話は0263–37–(＊＊＊＊)，e-mailは（＊＊＊＊)@gipac.shinshu-u.ac.jpと続きます．ファックス番号は共通で，0263–37–2506です．また，年会専用e–mailとしてnenkai98@geogate.shinshu–u.ac.jpもあります．

大会準備委員長　　秋山雅彦（2487 ; akiyama）
同副委員長（会計）　酒井潤一（2486）
庶　務　　公文富士夫（2479 ; shkumon）
会　場　　大塚　勉（2912 ; otsukat），角野由夫（2500 ; ysumino），塚原弘昭（2485 ; htukah）

展示・販売	森清寿郎（2505 ; xmoriki），吉田孝紀（2517 ; kyos@geogate.shinshu-u.ac.jp）
ポスター発表	山口佳昭（2484 ; yyamagu）
受　付	村越直美（2526 ; nao6827），河内晋平（skawach@gipnc.shinshu-u.ac.jp）
見学旅行・案内書	小坂共栄（2477 ; tkosaka），原山　智（2481 ; harayama@ripms.shinshu-u.ac.jp），赤羽貞幸（skahane@gipnc.shinshu-u.ac.jp）
懇親会	保柳康一（2482 ; hoya101）
宿泊・交通	福島和夫（2502 ; kfukush）
会　計	牧野州明（2501 ; makinox）

13.　**申込スケジュール　＜〆切日厳守＞**

○　一般発表申込（往復ハガキA，B）	6月30日
○　ザ・フォッサマグナ展示（地調　有田へ）	6月30日
○　企業等団体展示会申込（松本準備委員会へ）	6月30日
○　夜間小集会（東京行事委員会へ）	6月30日
○　見学旅行参加申込（往復ハガキC，D）	7月31日
○　講演要旨原稿提出（東京行事委員会へ）	8月15日
○　保育所利用申込（松本準備委員会へ）	8月10日
○　展示・販売委託関係申込（松本準備委員会へ）	8月30日
○　懇親会参加申込（ハガキC）	9月 4 日
○　講演要旨予約申込と送金（とじ込み振替用紙）	9月11日
○　見学旅行・懇親会参加費の送金（とじ込み振替用紙）	9月11日

日本地質学会行事委員会
電話　03–3252–7242，Fax　03–5256–5676
日本地質学会第105年年会（松本大会）準備委員会
〒390–0802　松本市旭3–1–1　信州大学理学部地質科学科
電話　0263–37–2479，Fax　0263–37–2506
e–mail : nenkai98@geogate.shinshu–u.ac.jp

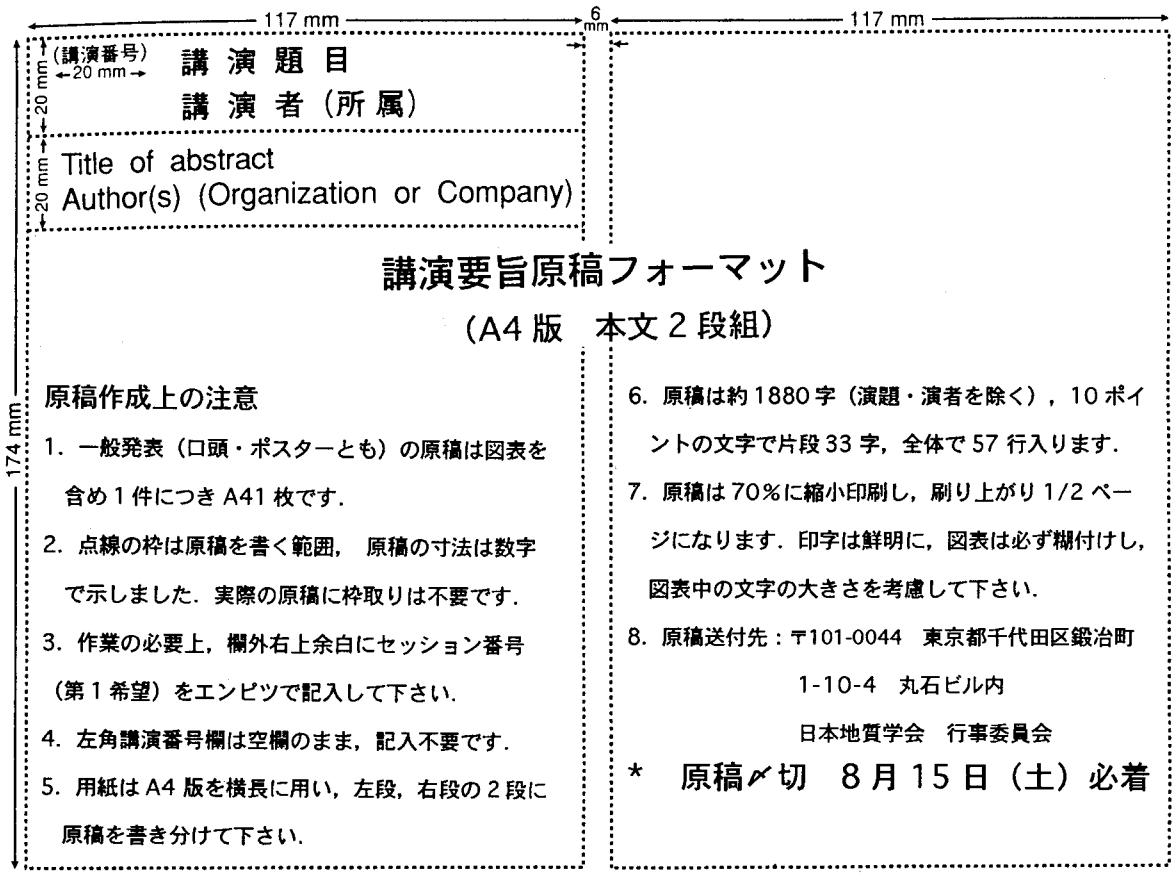


表 1.　セッション一覧

＊ 各セッション1行目＝番号．セッション名：略称，ポスター発表の可否，申込に際し地域名記載の要・不要
＊ 招待講演者の項目記載がないセッションは「招待講演者：なし」です．

1.　地域地質(国内)：国内地質，ポスター：可，地域名：要
世話人（e-mail）：斎藤　眞（saitomkt@gsj.go.jp）
趣旨：各地域を軸にして，過去から現在に至る総合的な地質の理解をめざす．野外調査を主体とした研究だけでなく，海域や各地域の地質に関連したさまざまな分野の発表を広く募集する．

2.　地域地質（海外）：海外地質，ポスター：可，地域名：要
世話人：脇田浩二（wakita@gsj.go.jp）
趣旨：世界各地の地質を中心とした研究を軸にしてグローバルな地質の理解をめざす．野外調査を主体とした研究だけでなく，海域や各地域に関連したさまざまな分野の発表も広く募集する．
招待講演者：1．佐藤　正（深田地質研究所）・奥村公男（鳴門教育大）・脇田浩二（地調）

3.　フォッサマグナ：フォッサ，ポスター：可，地域名：要
世話人（e-mail）：天野一男（kam@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）・小坂共栄・高橋正樹・竹内圭史
趣旨：フォッサマグナは新生代以降の日本列島の形成史を編む上で，極めて重要な地域である．フォッサマグナの実像を探り，新たな島弧論展開の糸口を見つけたい．応用地質学的分野も含め広く講演を募集する．
招待講演者：松田時彦（西南学院大）

4.　惑星地質・インパクトからみた地球環境：惑星地質，ポスター：可，地域名：不要
世話人：三浦保範（yasmiura@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp）
趣旨：IGCP384（インパクトと地球外球粒）を中心に惑星地質（隕石，衝突，隕石孔，月・火星・小惑星の地質探査などを含める）の分野の講演も広く募集する．
招待講演者：1．矢内桂三（岩手大），2．三浦保範（山口大）

5.　地域層序：地域層序，ポスター：可，地域名：要
世話人：新妻信明（senniit@sci.shizuoka.ac.jp）
趣旨：各地の地層に対する各種の層序研究（岩相層序，磁気層序，化石層序，年代層序，弾性波層序，化学層序，新層序研究法など），調査地域の層序を周辺域さらには全世界的な対比についての講演を広く受け入れる．
招待講演者：星　博幸（愛知教育大）

6.　広域層序：広域層序，ポスター：可，地域名：要
世話人：柳沢幸夫（yanagisa@gsj.go.jp）
趣旨：近年，分解能と確度の向上が著しい年代尺度，年代層序，生層序，テフラ層序，磁気層序，化学層序などの研究のうち，広域にわたって対比を行い，日本・世界の標準層序の確立を目的とする研究講演を行う．
招待講演者：新妻信明（静岡大）

7.　大陸縁辺層序：大陸縁辺層序，ポスター：可，地域名：要
世話人：酒井治孝（hsake@rc.kyushu-u.ac.jp）
趣旨：大陸縁辺地域の堆積物は海水準とテクトニクスの変動を記録している．世界各地の過去から現在に至るこれらの堆積物の層序学的研究とそれに基づく古環境・地殻変動についての講演を広く受け入れる．
招待講演者：木村勝弘（石油公団）

8.　古海洋底・付加地塊層序の復元：層序の復元，ポスター：可，地域名：要
世話人：松岡　篤（matsuoka@geobio.ge.niigata-u.ac.jp）・永広昌之
趣旨：付加体内に取込まれている海洋起源物質や大陸・島弧の層序を組み上げることにより失われた海洋や断片化した大陸・島弧の層序を復元することができる．多様な観点からの層序復元に関する講演を広く受け入れる．
招待講演者：1．東田和弘（名大），2．加藤泰浩（山口大）

9.　砕屑物組成とテクトニクス：砕屑物組成，ポスター：可，地域名：要
世話人：公文富士夫（shkumon@gipac.shinshu-u.ac.jp）・君波和雄・武蔵野実・竹内　誠
趣旨：80年代から砕屑物のモード組成や化学組成．粒子個々の諸特性に基づく後背地と造構場の識別方法についての研究が急速に進展した．このような研究の現段階を総括し，次の研究の進展を図る．論集を企画中．
招待講演者：1．寺岡易司　ザクロ石粒子の化学組成による後背地解析法―レーダーダイアグラム―，2．足立　守（名大）砕屑粒子の年代論から解析するテクトニクス，3．君波和雄（山口大）日本列島の砂岩の化学組成とテクトニクス，4．公文富士夫（信州大）砂岩組成とテクトニクス―セッションの趣旨とレビュー

10.　炭酸塩岩起源と環境：炭酸塩岩，ポスター：可，地域名：不要
世話人：佐野弘好（sano@planet.geo.kyushu-u.ac.jp）・松本　良
趣旨：炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の層序，岩相・生相，堆積作用，堆積環境，続成・ドロマイト化作用など広範な問題を取扱い，地質学，堆積学，古生物学など多方面から炭酸塩岩・炭酸塩堆積物の地球史的意義を討論する．

11.　炭酸塩地球化学から読み取る環境変動：炭酸塩化学，ポスター：可，地域名：要

世話人：松田博貴（hmat@sci.kumamoto-u.ac.jp）・狩野彰宏

趣旨：炭酸塩堆積物には，無機・有機・同位体などの化学組成変化という形で様々な時間スケールの地球表層環境の変動が記録されている．炭酸塩地球化学を基にした環境変動に関する研究成果を討論する．

招待講演者：1．相澤省一（群馬大）顕生代炭酸塩岩中の微量元素含量と海洋環境との関連，2．山田　努（東北大）造礁サンゴ骨格の同位体組成から読み取る日オーダーの海洋環境変動

12.　地質学において堆積有機物の果たす役割：有機地質学，ポスター：可，地域名：不要

世話人：秋山雅彦（akiyama@gipac.shinshu-u.ac.jp）

趣旨：堆積性有機物としてのケロジェンやバイオマーカーについて，1978年に刊行された地質学論集8号「ダイアジェネシス」以降の研究を総括し，今後の展望を明らかにする．

招待講演者：1．下山　晃（筑波大），2．鈴木徳行（北大）

13.　シーケンス層序学―基本概念，テクトニクス・層序への応用―：シーケンス，ポスター：可，地域名：要

世話人：高野　修（takano-o@jnoc.go.jp）・伊藤　慎

趣旨：各地におけるシーケンス層序学による地層の解析事例を報告・検討すると共に，変動帯における構造運動，汎世界的海水準変動，砕屑物供給という3つの堆積規制要素の関連性を探ることを目的とする．

14.　堆積相と堆積システム：堆積相ポスター：可，地域名：不要

世話人：立石雅昭（sedta9-4@sc.niigata-u.ac.jp）・鎌田耕太郎・増田富士雄

趣旨：堆積相の時空分布をもとにした堆積システムの認定，その変遷の解析は地層形成過程をダイナミックに復元する基礎である．堆積相の分類・記載，その時空分布をもとにした堆積システムの解釈を扱う．

15.　続成作用：続成，ポスター：可，地域名：不要

世話人：立石雅昭（sedta9-4@sc.niigata-u.ac.jp）・柳本　裕

趣旨：堆積岩生成過程にとって重要な課題の一つである続成過程は源岩の性質と場の条件によって多様である．石油・天然ガス生成過程を含めて，系統的な研究の方向を確立する立場で講演を募る．

16.　珪質堆積物：ケイシツ，ポスター：可，地域名：不要

世話人：井本伸広（nimoto@wsml.kyokyo-u.ac.jp）・多田隆治・斎藤靖二

趣旨：珪質堆積物の研究は地球表層での物質循環や環境の変遷の解明には不可欠である．チャート，珪質頁岩など固結堆積物に限らず現成珪質堆積物の堆積・続成過程,シリカ収支,地球化学的検討など多様な報告を期待する．

17.　堆積過程（実験，シミュレーション，現行堆積）：堆積過程，ポスター：有，地域名：不要

世話人：宮田雄一郎・斎藤文紀（yoshi@gsj.go.jp）

趣旨：現行の堆積過程を実験，シミュレーションや陸域や海域での観測・調査から明らかにすることを目的として，関連する研究発表と議論を行う．

18.　海洋地質：海洋地質，ポスター：可，地域名表示：要

世話人：西村　昭（akiran@gsj.go.jp）・湯浅真人

趣旨：海洋地質（テクトニクス・堆積学・古海洋学など）に関する調査の速報から，アイデアや総合的な解釈まで，海洋地質のすべての分野を含む．地形・構造の画像データなどのポスターでの発表を歓迎．

19.　テクトニクス：テクトニクス，ポスター：可，地域名：要

世話人：大藤　茂（shige@sci.toyama-u.ac.jp）・宮田隆夫・山北　聡

趣旨：地球科学のあらゆる手法・データから，様々な規模の地質構造の成因や発達史を総合的に解明した講演を歓迎する．セッションの一部で，中生代日本列島の，走向すべり断層による地帯の再配列に関する討論を行いたい．

招待講演者：1．越谷　信（岩手大）・永広昌之（東北大），2．高木秀雄（早稲田大），3．大塚　勉（信州大），4．早坂康隆（広島大）

20.　活構造：活構造，ポスター：可，地域名：要

世話人：杉山　雄一（sugiyama@gsj.go.jp）・芦寿一郎

趣旨：本セッションは，地球上の様々な活構造，ネオテクトニクス，活構造と社会，等に関する研究発表を通じて，現在進行中の構造運動の理解を深めると共に，活構造と人類との共存について議論することを目的とする．

21.　プレート沈み込み帯におけるリモートセンシング，ロギング，およびモニタリング：沈込帯の計測，ポスター：可，地域名：不要

世話人：平　朝彦・斎藤実篤（saito@ori.u-tokyo.ac.jp）・芦寿一郎・斎藤文紀

趣旨：プレート沈み込み帯での現行地質過程の解明へ向けて，海陸でのリモートセンシング，孔内計測，地殻変動観測を中心に，方法論，科学的課題，今後の掘削計画への展望を議論する．

招待講演者：伊藤久男（地調）

22.　付加体：付加体，ポスター：可，地域名：要

世話人：狩野謙一（sekkano@sci.shizuoka.ac.jp）・木村克己

趣旨：陸域における過去の付加体の起源・形成過程を総合的に討議するため，多様な研究成果の発表を募集する．特に構

造的側面を柱の一つにし，地帯別，メランジュ，熱構造などのテーマ別の講演組み合わせを検討する．
招待講演者：1．脇田浩二（地調），2．田上高広（京大），3．狩野謙一（静岡大）

23．　断層岩：断層岩，ポスター：可，地域名：要
世話人：田中秀実（tanaka@sci.ehime-u.ac.jp）・林　愛明
趣旨：「断層岩」は，断層に限らず広い意味の剪断帯において変形-変成/変質作用を受けた岩石の総称である．本セッションでは，「断層岩」研究に関連する多方面からの様々なアプローチの公演を歓迎する．

24．　岩石・鉱物の変形：岩石の変形，ポスター：可，地域名：不要
世話人：竹下　徹（toru@letitbe.geol.sci.hiroshima-u.ac.jp）・清水以知子
趣旨：岩石・鉱物の変形過程や変形構造の成因に関する最新の研究成果の発表を募集し，活発な議論を期待する．フィールド観察，理論，数値計算，変形実験など，多様な手法に基づく研究発表を歓迎する．

25．　動的岩石学の新たな展開：動的岩石学，ポスター：可，地域名：不要
世話人：鳥海光弘（tori@geol.s.u-tokyo.ac.jp）・小畑正明・西山忠男
趣旨：ここ数年地球科学の分野では平衡系から離れた反応，拡散，流動，再結晶や破壊などを含む地殻やマントル過程でのあらたな構造形成が発見された．これらについて動的岩石学の視点から議論する．
招待講演者：1．寅丸　敦（金沢大），2．田口善弘（中央大），3．森下律生（熊本大），4．水谷哲夫（東大）

26．　日本列島の内陸大地震は地質構造とどうかかわるか：地質と地震，ポスター：可，地域名：要
世話人：塚原弘昭（htsukah@gipac.shinshu-u.ac.jp）・小嶋　智・佃　栄吉・竹内　章・大塚　勉
趣旨：内陸大地震が発生しているのは地質構造上どのような場所なのか，活断層，震源分布，地殻ひずみ，地質構造形成史などを考慮し地質学の視点から攻める．地質学が，地震災害の軽減に貢献する道を探る．
招待講演者：1．橋本　学（京大），2．伊藤　潔（京大），3．飯尾能久（防災科技研）

27．　火山噴火と噴出物：火山噴火，ポスター：可，地域名：不要
世話人：中田節也（nakada@eri.u-tokyo.ac.jp）・安井真也
趣旨：特定の火山噴火について，噴火に至るまでのマグマの上昇過程や噴出物の移動・運搬・堆積過程に関する地質・岩石学的研究，及び，それに係る実験的研究の成果発表を募集する．噴火活動の調査報告も歓迎．
招待講演者：1．井上素子（埼玉県博）浅間火山1783年噴火の再検討，2．遠藤邦彦・長井大輔・橘川貴史・小森次郎（日大）雲仙普賢岳噴火の火砕流・火砕サージ堆積物の堆積構造

28．　水蒸気爆発：水蒸気爆発，ポスター：可，地域名：不要
世話人：伊藤順一（jitoh@gsj.go.jp）・林　信太郎
趣旨：水蒸気爆発に関する事例研究，特定火山における水蒸気爆発の頻度や規模，水蒸気爆発の発生環境に関する研究，水蒸気爆発噴出物における本質物質認定手法に関する研究など，広範な分野からの研究成果の発表を歓迎する．
招待講演者：1．守屋以智雄（金沢大）安山岩質成層火山における水蒸気爆発の発生頻度，2．奥野　充（名大）降下堆積物から見た水蒸気爆発の頻度と規模

29．　火山地質と火山発達史：火山地質，ポスター：可，地域名：不要
世話人：中川　光弘（nakagawa@cosmos.sci.hokudai.ac.jp）
趣旨：個々の火山の地質記載，露頭の解釈から特定の火山あるいは火山地域の発達史まで広く関連した一般講演を募る．そして手法に関する議論から火山の存在そのものの意味までを考えたい．
招待講演者：1．小林哲夫（鹿児島大）2．古川竜太（北大），3．山元孝広（地調）

30．　火山岩および関連する深成岩：火山岩，ポスター：可，地域名：要
世話人：周藤賢治（shuto@scux.sc.niigata-u.ac.jp）・吉田武義
趣旨：火山体を構成する各種火山岩や，火山活動に伴って形成された深成岩の研究は，地下深部から地表に至るマグマプロセスの解明にとって重要である．火山岩及び関連する深成岩の多様な研究成果の発表を歓迎する．
招待講演者：川手新一（東北大）丹沢深成岩類の成因と伊豆弧火山岩

31．　マグマとマグマ成因論：マグマ，ポスター：可，地域名：不要
世話人：木村純一（jkimura@riko.shimane-u.ac.jp）・高澤栄一・吉田武義
趣旨：火成岩・火山ガスなどを対象とした岩石学・地球化学領域の研究を中心として，マグマの特性とその成因を議論する事を目的とする．火山地質，地球物理，地球環境等の周辺・応用領域を含む広範な研究発表を募集する．
招待講演者：岩森　光（東大）マグマ生成の場・素過程と火成岩の多様性

32．　火山活動とテクトニクス：火山テクト，ポスター：可，地域名：要
世話人：高橋正樹（takama@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）
趣旨：火山活動とテクトニクスに関する様々なテーマの講演を募集する．特に今回は，飛騨山地（北アルプス）の第四紀火山活動とテクトニクスに関わる講演を歓迎する．
招待講演者：川崎一朗（富山大）

33．下部地殻～上部マントルのマグマプロセス，ポスター：可，地域名：要
世話人：新井田清信（kiyo@cosmos.sci.hokudai.ac.jp）・荒井章司

趣旨：日高帯やコヒスタン帯，オフィオライトなど各地の地殻-マントル系のマグマプロセスを議論する．マグマの生成・集積・通過・停滞にともなうメルト−固体反応などマグマが関与した幅広い深部プロセスに焦点をあてる．

招待講演者：1．高橋栄一（東工大）実験岩石学から見た深部マグマ過程，2．高澤栄一（新潟大）幌満かんらん岩の微量元素とメルト−マントル反応，3．志村俊昭（新潟大）ミグマタイト成因論からみた下部地殻でのメルト−固体反応，4．久保和也（地調）コヒスタン島弧下部地殻のマグマ溜まり

34．**変成作用とテクトニクス：変成作用一般，ポスター：可，地域名：要**

世話人：廣井美邦（yhiroi@earth.s.chiba-u.ac.jp）・渡辺暉夫

趣旨：変成岩から読み取ることのできるあらゆる情報をもとに，超変成作用や火成作用を含めたテクトニクスについての講演と討論をおこなう．変成岩関係の最も一般的で広範なテーマのセッションである．

35．**古領家帯と黒瀬川帯の諸問題−第2部古領家帯：古領家帯，ポスター：可，地域名：要**

世話人：高木秀雄（hideo@mn.waseda.ac.jp）・磯﨑行雄・武田賢治

趣旨：地体構造論上の謎である“古領家帯”の実態，西南日本中軸帯の構造発達史，東北日本の南部北上帯・阿武隈帯との関連および日本列島の古期花崗岩体の形成過程について議論し，今後の研究方針を探る．

招待講演者：鈴木和博・足立　守（名大）

36．**プレート収束域の深部過程：プレート深部，ポスター：可，地域名：不要**

世話人：榎並正樹（enami@eps.nagoya-u.ac.jp）・田切美智雄・平島崇男

趣旨：「地殻―マントルの相互作用と進化」をキーワードとして，(i) 再結晶作用・部分融解・変成流体の挙動などからみた物質循環や (ii)（超）高圧変成作用のテクトニクスと大陸進化などについて活発な討論を期待します．

招待講演者：1．岩森　光（東大），2．渡辺暉夫（北大）

37．**オフィオライトと海洋プレート―生成からエンプレースメントまで：オフィオ岩，ポスター：可，地域名：要**

世話人：宮下純夫（miyashit@sc.niigata-u.ac.jp）・石渡　明

趣旨：オフィオライトは，過去の海洋地域における火成活動のタイムカプセルであり，海洋プレートを3次元的に解析できる場である．本セッションではオフィオライトや緑色岩，現在の海洋プレートに関する研究も歓迎する．

招待講演者：丸山茂徳（東工大）環太平洋オフィオライトとプリュームテクトニクス

38．**超高温変成作用と地殻の溶融：超高温変成岩，ポスター：可，地域名：不要**

世話人：石塚英男（ishizuka@cc.kochi-u.ac.jp）・小山内康人（岡山大教育）

趣旨：本セッションでは，超高温変成作用（1000℃以上）の実例を紹介するとともに，その成因，特に「地殻の溶融―ある種のマグマの発生」という問題における超高温変成作用の役割りについて解明することをめざす．

招待講演者：1．本吉洋一（極地研）超高温変成作用研究の最近の動向，2．廣井美邦（千葉大）地殻の溶融：証拠と意義

39．**情報地質：情報地質，ポスター：ポスターのみ口頭なし，地域名：不要**

世話人：升本眞二（masumoto@sci.osaka-cu.ac.j）・坂本正徳・西脇二一

趣旨：地質情報の数理解析，統計解析，データ処理，画像処理などの理論，応用，システム開発，利用技術など，最近の情報地質分野の研究結果を討論する．また，これらの成果の地質学分野への幅広い応用・普及を目指す．

招待講演者：山根裕之（CRC総研）

40．**太平洋地域における古第三紀〜新第三紀初期の地史的イベント―堆積・テクトニクス・古生物事件の対比：太平洋新生代，ポスター：可，地域名：不要**

世話人：小笠原憲四郎（ogasawar@arsia.geo.tsukuba.ac.jp）・木村　学・保柳康一

趣旨：太平洋と他の海洋との開閉問題に関連した太平洋地域新生代の地史的事件と環境変遷について，プレートテクトニクス・火山活動・堆積・古生物など多角的に議論し，イベントの相互関係について理解を深める．

招待講演者：1．山路　敦（京大）新生代太平洋地域のプレートテクトニクスと日本列島，2．吉田武義（東北大）新生代東北本州弧における火山活動の変遷，3．小笠原憲四郎（筑波大）古第三紀〜新第三紀初期の太平洋地域の地史的イベント，4．保柳康一（信州大）新生代東北日本弧−千島弧会合部の堆積作用からみたイベント

41．**山脈の上昇と山間・前縁盆地の形成―ヒマラヤと日本：ヒマラヤ，ポスター：なし，地域名：要**

世話人：在田一則（arita@cosmos.sci.hokudai.ac.jp）・酒井治孝・中山勝博

趣旨：山脈（大陸地殻）の形成過程および山脈上昇に伴う環境変化を解明することを目的に，おもにヒマラヤと日本を対象（他地域も歓迎）に，それらの前縁・山間盆地の層序・堆積物・テクトニクス・年代論などをひろく議論する．

招待講演者：1．池田安隆（東大），2．Sorkhabi, Rasoul（石油公団）

42．**超大陸の形成・分裂と地殻進化テクトニクス：ゴンドワナ，ポスター：可，地域名：不要**

世話人：吉田　勝（myoshida@sci.osaka-cu.ac.jp）・渡辺暉夫・小山内康人

趣旨：かつての超大陸ゴンドワナランドを中心とする超大陸の形成・分裂テクトニクスや，関連する各地の重要地質事件を，様々な分野からのアプローチにより議論し，超大陸テクトニクスの総合的理解の形成に寄与しようとする．

招待講演者：1．丸山茂徳（東工大）超大陸とスーパープルーム，2．渡辺暉夫（北大）ユーラシアの集合テクトニクス，3．広井美邦（千葉大）東ゴンドワナにおけるパンアフリカ変動，4．D.Mukhopadhyay（Calcutta大）Tectonics of the Central Indian Tectonic Zone

43.　**超大陸の形成・分裂と地殻深部・マントルダイナミクス：ダイナミクス，ポスター：可，地域名：不要**

世話人：有馬　眞（arima@ed.ynu.ac.jp）・巽　好幸

趣旨：超大陸の集合．分裂事件に伴う，大陸地殻深部・マントルのダイナミックな相互作用について総合的に討論を行い，今後の研究戦略について論議する．

招待講演者：1．小畑正明（京大）超塩基性岩体の構造から読みとるマントルのダイナミクス，2．本多　了（広島大）大陸とマントル対流の相互作用のダイナミクスについて，3．増田俊明（静岡大）岩石1個のダイナミクス

44.　**超大陸の形成・分裂と地球環境の変遷：超大陸と環境，ポスター：なし，地域名：不要**

世話人：磯﨑行雄（isozaki@chianti.c.u-tokyo.ac.jp）

趣旨：40億年に及ぶ生物進化を含む表層環境変化史は，惑星地球の非可逆的進化過程の一部にあたる．超大陸の分裂をおこすプルームの活動など，表層環境の大変革の機構の解明を目指して，多方面から議論する．

招待講演者：1．大野照文（京大）原生代・古生代境界での生物変遷，2．川上紳一（岐阜大）原生代・古生代境界での環境変化

45.　**環境地質–微生物による重金属の除去と環境修復を含めた地質汚染および廃棄物・残土における諸問題：環境修復，ポスター：可，地域名：要**

世話人：田崎和江（kazuet@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp）・上砂正一

趣旨：重金属，有機溶剤，重油などで汚染された水圏，地殻の浄化法，廃棄物や残土の処理方法，汚染による生態系の変化などについて化学的，物理的，生物的な環境修復について研究発表を行う．

招待講演者：加藤憲二（信州大）

46.　**環境地質-水文地質・都市地質ー：環境水文都市，ポスター：なし，地域名：不要**

世話人：長瀬和雄・古野邦雄（riegc@ppp.bekkoame.or.jp）

趣旨：水資源，温泉，湧水，地盤沈下，地下水盆管理，湖沼や河川など水循環にかかわる全ての分野，および都市環境問題などの地質環境と人間活動に関する分野の研究発表および討論．

47.　**環境地質ー地震地質・地殻変動と動的問題および防災：環境地震災害，ポスター：なし，地域名：不要**

世話人：香村一夫（riegc@ppp.bekkoame.or.jp）・小荒井衛

趣旨：活構造・異常震動域・地震動・地盤震動・地震災害・地層の液状化と流動化などである．地震や災害に関する調査研究の現状報告の場とするとともに「地震などによる地質災害に環境地質の面からいかに対処すべきか」について討論したい．

48.　**環境地質ー人間社会と地質環境ー：環境人間社会，ポスター：なし，地域名：不要**

世話人：鈴木喜計（ged03722@niftyserve.or.jp）・藤井昭二

趣旨：地質環境資源の利用・開発，その管理，環境アセスメント，環境モニタリング，地質環境のメンテナンス，法地質学・環境教育・環境倫理などである．また討論のなかから社会問題と環境地質学的取り組みの有効な関係を探っていきたい．

49.　**脊椎動物化石の系統と古生態：脊椎動物化石，ポスター：可，地域名：不要**

世話人：高橋啓一（takahasi@lbm.go.jp）

趣旨：近年，日本あるいは世界の各地で新たな脊椎動物化石が発見されている.それらの化石の発見報告にとどまらず，系統や古生態の復元に関する様々な議論を行いたい．

50.　**中・古生代古生物：中生代古生物，ポスター：可，地域名：要**

世話人：安藤寿男（ando@mito.ipc.ibaraki.ac.jp）

趣旨：中・古生代の古生物は，時代・環境指標としてしばしば地質学や地球史復元に重大な局面をもたらしてきた．これら膨大な絶滅生物を分類，古生態，系統進化，生層序，タフォノミー，古環境解析などの様々な視点から探る．

51.　**古生物―新生代―：新生代古生物，ポスター：可，地域名：要**

世話人：天野和孝（amano@juen.ac.jp）

趣旨：新生代の無脊椎動物化石および植物化石の系統分類，古生態，古生物地理に関する新知見を発表し，検討・討論を行う．

招待講演者：小笠原憲四郎（筑波大）

52.　**地学史・地学教育：地学教育普及，ポスター：なし，地域名：不要**

世話人：有田正史（arita@gsj.go.jp）

趣旨：現在，初等教育における地学教育は危機に直面している．この事態を解決しなければ，次世代の地質学の先行きには展望がない．そこで，先人の地学普及史，現在の地学教育の実態を討議し，あるべき姿を模索する．

53.　**応用地質―岩盤崩落および崩壊：岩盤崩落崩壊，ポスター：可，地域名：要**

世話人：籾倉克幹（momikura.yoshimasa@kiso.co.jp）・千木良雅弘

趣旨：御岳くずれ，豊浜トンネル崩壊，第2白糸トンネル崩壊など急性の岩盤崩落や崩壊がおこり，これらの発生場所と時期予想についてどこまで迫れるか地質学的側面からの研究発表・事例紹介を期待する．

招待講演者：未定

表2. 見学旅行一覧

＊集合解散の場所・時間など細部の変更もあり得ますので，学会期間中は掲示等の案内に注意して下さい．
＊案内書は費用に含まれません．期間中会場にて販売しますので各自購入して下さい．
＊費用概算の欄の（　）の金額は9月1日以降の取り消し料です．

班・名称	見学コース	主要見学対象	期　日	定　員	案内者	費用概算	地形図
⑴ 博物館見学 ミュージアム鉱研 地球の宝石箱	JR松本駅（東急イン向，8：30）→塩尻市北小野，ミュージアム鉱研「地球の宝石箱」見学→同地にて昼食（バーベキュー）→JR塩尻駅（15：30） ＊小・中学生（非会員）の参加も可	チリ産大型銅鉱石（野外展示），大きな石たち（大型群結晶・鉱石），美しい結晶，宝石の原石，地球の活動，フォッサマグナと中央構造線，隕石，38億年の生命の歴史（化石）人類生活の痕跡，火成岩・堆積岩・変成岩（エクロジヤイト大型標本など），地球からの贈り物（資源），美しい鉱物たち，地球を調べる（物理探査・ボーリング技術）．地質雑，103/12，1997参照	28日 日帰り	40名（大型バス予定）	加藤信一 斎藤秀康 （以上ミュージアム鉱研） 秋山雅彦	\5,000（\2,000） 小・中学生 \3,000（\1,000） 入館料，昼食代含	なし
⑵ 姫川中流域の大規模地すべりと土砂災害	信州大学北門（8：30）→来馬周辺・土沢流域→小谷村（泊）→大所川流域→JR松本駅（17：00）	来馬西方土沢の巨大地すべり，1996年12月蒲原沢土石流被災地，大所地すべり，山の坊地すべり	28～29日 1泊2日	20名（中型バス予定）	高浜信行 赤羽貞幸 古川昭夫 竹之内耕 熊谷大介	\20,000（\10,000）	（1/2.5万）越後平岩，雨飾山，白馬岳，雨中
⑶ 松本盆地の第四系と糸魚川−静岡構造線（牛伏寺断層）	信州大学理学部前（8：00）→塩尻市洗馬→松本市中山→JR松本駅（17：00）	洗馬:松本盆地形成初期の堆積物と火山灰層，中山:牛伏寺断層と関連する堆積物・火山灰層	28日 日帰り	20～30名（乗用車予定）	酒井潤一 松本盆地団体研究グループ	\2,000（\1,000）	（1/2.5万）松本，山辺，塩尻，鉢伏山，北小野
⑷ 伊那谷の活断層	JR松本駅（東急イン向，9：00）→辰野町（JR・中央道高速バス連絡）→箕輪町→伊那市→宮田村→駒ヶ根市（泊）→飯島町→中川村→松川町→高森町→豊丘村→喬木村→飯田市（泊）→阿智村→下条村→泰阜村→阿南町→飯田市バスセンター（中央高速バス）・JR飯田駅解散（15：00）	断層地形，断層露頭，伊那谷のテラフ，伊那谷の第四系，断層と扇状地の形成，断層と段丘の形成，中央アルプスの上昇と伊那盆地の発達，断層と天竜川の流路，伊那谷構造盆地のパノラマ，伊那谷断層帯と地震予測	28～30日 2泊3日	10名	松島信幸 寺平　宏 村松　武	\27,000（\14,000）	（1/2.5万） 宮木，辰野，伊那，高遠，伊那宮田，赤穂，伊那大島，安平路山，下市田，飯田，時又，伊那駒場，山田高地，浪合
⑸ 八ヶ岳麓の第四系	信州大学北門（8：30）→丸子→八ヶ岳北東麓の下部更新統→川上村周辺の中期更新世ローム→小海（泊）→南牧村周辺の中部更新統→JR小淵沢駅解散（17：00）	八ヶ岳東麓に分布する，火山噴出物を挟在する前～中期更新世の河・湖成層層序	28～29日 1泊2日	20名（中型バス予定）	八ヶ岳団体研究グループ（代表:熊井久雄）	\25,000（\12,000）	（1/2.5万）丸子，小諸，御代田，臼田，信濃田口，高野町，海瀬，松原湖，信濃中島，八ヶ岳東部，御所平，（1/20万）長野
⑹ 乗鞍火山の山頂火口めぐり	JR松本駅（東急イン向，8：30）→乗鞍岳畳平→山頂（剣ケ峰）往復→JR松本駅（18：00）ただし，遠望がきかない場合はコース変更．以下のコースを，久々野高山営林署に立入を許可された場合に実施．剣ケ峰→大日岳→屏風岳→権現池→肩の小屋→五の池→里見岳→畳平（山頂往復約4時間，踏跡程度以下の荒廃した登山路を歩行）	乗鞍火山の地形と噴出物	28日 日帰り	20名（中型バス予定）	中野　俊	\7,000（\4,000）	（1/2.5万）乗鞍岳（梓湖）

班・名称	見学コース	主要見学対象	期　日	定　員	案内者	費用概算	地形図
⑺　北アルプスの温泉めぐり（湯俣・葛）	信州大学北門（8：30）→大町市東京電力高瀬川総合制御所→高瀬ダム→（徒歩約2時間）→湯俣渓谷→（徒歩約2時間）→葛温泉（入湯・食事）→JR松本駅（19：30）	湯俣渓谷の噴湯丘・球状石灰華（天然記念物） ＜注意＞傾斜は急ではありませんが，徒歩時間が長いので，多少体力を要します	28日 日帰り	約15名	福島和夫	\5,000　（\3,000） 食事・入湯料含.	（1/5万）槍ヶ岳
⑻　和田峠のザクロ石	信州大学北門（9：00）→和田峠東餅屋→JR松本駅（17：00）	和田峠の含水ザクロ石の産状と採集，および火道黒曜石.	28日 日帰り	23名（中型バス予定）	牧野州明 山口佳昭	\6,000（\3,000）	（1/2.5）霧ヶ峰
⑼　北アルプス，第四紀滝谷花崗閃緑岩と穂高安山岩	JR松本駅（東急イン向，8：30）→上宝村鍋平高原→西穂高口→西穂高山荘→西穂高岳独標→上宝村中尾高原（泊）→蒲田川右俣谷穂高平→同白出沢→JR松本駅（18：00）（雨具・軽登山靴など小屋泊まり登山の装備を用意して下さい）	地表に露出した花崗岩としては世界で最も若い（固結年代1.4～1.1 Ma）滝谷花崗閃緑岩（天井相から深部相まで）．滝谷花崗閃緑岩のルーフを構成し，更新世初頭の大規模火砕流給源地でもある穂高安山岩．このほか天候が良ければ穂高連峰・笠ヶ岳連峰など山岳地形と白亜期末コールドロンの断面構造が遠望観察可能.	28～29日 1泊2日	23名（中型バス予定）	原山　智	\25,000（\12,000） 新穂高ロープウェイ料金を含.	（1/2.5万）笠ヶ岳，穂高岳
⑽　フォッサマグナ西縁部の鮮新・下部更新統	信州大学北門（8：30）→糸魚川市「フォッサマグナミュージアム」→小谷村雨中→白馬村（泊）→美麻村→大町市松崎→池田町会染→塩尻洗馬→JR塩尻駅（17：00）	フォッサマグナミュージアム，姫川断層大峰帯北部の海成鮮新統，岩戸山付近の安山岩質火山岩類，小谷–中山断層，丸切沢向斜，大峰累層の巨大礫・扇状地堆積物，大規模火砕流堆積物（鷹狩山凝灰岩Ⅰ・Ⅱ，大峰溶結凝灰岩層など）高瀬川河床の溶結凝灰岩，塩尻市洗馬の火砕流堆積物	28～29日 1泊2日	20名（中型バス予定）	小坂共栄 長橋良隆	\20,000（\10,000）	（1/5万） 小滝，白馬岳，大町，信濃池田，松本，塩尻
⑾　北部フォッサマグナ新第三系ファンデルタの堆積シーケンス	信州大学北門（8：30）→四賀村岩井堂→坂北村差切峡→太田村野平→信州新町柳久保川→新州新町（泊）→柳久保池→太田川→JR松本駅（17：30）	岩井堂：小川累層の沿岸上方浅海化サクセション，差切峡：小川層のシーケンス境界（SB1）とファンデルタシステムによる堆積シーケンス野平：青木累層ファンデルタスロープのスランプスカーとスランプ堆積物，柳久保川～柳久保池：小川～柵累層のシーケンス境界（SB2～SB4）とファンデルタシステムによる堆積シーケンス，太田川:小川～柵累層の陸棚～ファンデルタへの浅海化（HCSと生痕化石・貝化石）	28～29日 1泊2日	20名（中型バス予定）	保柳康一 大村亜希子 吉川博章 中嶋貴紀	\20,000（\10,000）	（1/2.5万）高府，日名，信濃池田，明科
⑿　飛騨外縁帯と美濃帯の中・古生界	JR松本駅（東急イン向，8：30）→上宝村→丹生川村→高山市→安曇村乗鞍高原（泊）→同白骨温泉付近→同島々谷→JR松本駅（17：00）	飛騨外縁帯オルドビス系，デボン系，ペルム系，上広瀬礫岩，美濃帯白骨コンプレックスの石灰岩および緑色岩，沢渡コンプレックスのチャート砕屑岩シーケンス，島々コンプレックスのメランジュ	28～29日 （1泊2日）	23名（中型バス予定）	大塚　勉 吉田孝紀	\20,000（\12,000）	（1/2.5万）町方，焼岳梓湖，波田
⒀　領家変成帯のミグマタイトおよび変輝緑岩の産状	JR松本駅（東急イン向，8：30）→駒ヶ根市→菅の台→太田切渓谷→駒ヶ根市（泊）→長谷村→高遠→松本駅（18：00）（初日は太田切渓谷を遡上し，頻繁に渡渉します）	縞状片麻岩～メタテキサイト，ダイアテキサイト，優白質花崗岩，中央構造線，変輝緑岩一片麻岩反応帯，苦鉄質一珪長質マグマ混合岩	28～29日 （1泊2日）	20名（中型バス予定）	森清寿郎	\25,000（\12,000）	（1/2.5万）市野瀬，信濃溝口，赤穂，空木岳

宿泊・航空券のご案内

年会にあたり会員の便宜のために，宿泊,旅行等の斡旋を東急観光(株)松本支店にお世話をいただくことになりました．基本的には松本市内での宿泊と航空券の斡旋になります．お申し込みは所定の書式により，8月10日（月）までにお願いします．また，設定されているもの以外で乗り継ぎなど旅行全般，観光などは，各自必要に応じて旅行社へご相談下さい．松本の9月は観光シーズンで大変混雑することが予想されます．できるだけ早めに予定を立ててご予約されることをお勧めします．

お問い合わせ・申込先

東急観光(株)松本支店　『第105年日本地質学会』係
担当：北原・平林・生田・久納
〒390–08l5　長野県松本市深志l–2–l
TEL（0263）36–3535，FAX（0263）33–7549

1.　**宿泊　＜申込〆切　8月10日＞**

宿泊斡旋日：1998年9月24日（木)～9月27日（日）
宿泊代金：1人1泊朝食付き，税金・サービス料込みです．

地図	ホテル	1室1名	タイプ	1室2名	タイプ
①	ホテルブエナビスタ	\13,200	1–S	\12,600	1–T
②	松本東急イン	\10,800	2–S	\9,800	2–T
③	ホテルよろづや	\10,600	3–S	—	—
④	ホテルニューステーション	\10,000	4–S	—	—
⑤	松本ウェルトンホテル	\10,000	5–S	—	—
⑥	ウェルカム松本	\9,200	6–S	—	—
⑦	ホテル飯田屋	\9,500	7–S	\9,000	7–T
⑧	ハミルトンイン松本	\9,000	8–S	—	—
⑨	松本ツーリストホテル	\8,500	9–S	\8,000	9–T
⑩	スピカイン	\7,800	10–S	\7,000	10–T

＊立地条件：上記ホテルはどれも松本駅周辺にあります（市内ホテル案内図参照）．いずれも駅から徒歩数分，学会会場（信州大学）まではタクシーで15分です．駅前のバスターミナルからは信州大学病院行きのバスが15分～20分間隔で，約20分程です．
＊申込書には，ホテル名・部屋タイプ記号を記入して下さい．
＊ご希望タイプ，あるいはホテルが満室の場合は，他のタイプまたは同等クラスのホテルとなる場合がありますのでご了承下さい．
＊2人部屋ご希望の方は，同室者名をご記入下さい．

2.　**航空券　＜申込〆切　8月10日＞**

区　間	往　便			復　便			
	搭乗日	時　間	申込記号	搭乗日	時　間	申込記号	片道運賃
札幌⟷松本	9/24	10 : 30–12 : 00	SM–1	9/27	11 : 00–12 : 30	SM–1	\26,050
	9/24	12 : 30–14 : 00	SM–2	9/27	13 : 30–15 : 00	MS–2	\26,050
	9/25	10 : 30–12 : 00	SM–3	9/28	11 : 00–12 : 30	MS–3	\26,050
	9/25	12 : 30–14 : 00	SM–4	9/28	13 : 30–15 : 00	MS–4	\26,050
伊丹⟷松本	9/24	9 : 30–10 : 25	IM–1	9/27	16 : 30–17 : 25	MI–1	\16,400
	9/25	9 : 30–10 : 25	IM–2	9/28	16 : 30–17 : 25	MI–2	\16,400
福岡⟷松本	9/24	14 : 30–15 : 55	FM–1	9/27	12 : 15–13 : 45	MF–1	\26,400
	9/25	14 : 30–15 : 55	FM–2	9/28	12 : 15–13 : 45	MF–2	\26,400

＊申込書には，搭乗日・搭乗便ごとの申し込み記号を記入して下さい．
＊航空便が満席の場合もありますので，予めご了承下さい．
＊設定以外の期日をご希望の方は，申込書備考欄に，搭乗日・便名・区間を記入して下さい．
＊設定便の正式な時刻は，出発の約1ヶ月前に決定します．
＊松本空港から松本駅前までは，路線バスにて25分（運賃540円）です．

3.　**お申し込みとお支払い**

宿泊・航空便ともお申込は所定の申込書で，8月10日（月）までにFaxまたは郵送でお願いします．

＊申し込まれた方に対し，予約確認書および請求書が9月上旬までに発送されます．

＊予約確認書は当日は忘れずに持参して下さい．

＊代金は9月14日（月）までに銀行振込でご送金をお願いします．払い込み手数料は各自ご負担となります．なお，クレジットカードでの支払いはできません．（振込先：八十二銀行松本駅前支店，普通，648320　東急観光(株)松本支店）

＊代金には郵便代等の事務通信費として，1人500円が加算されますので予めご了承下さい．

4.　**変更・取り消しについて**

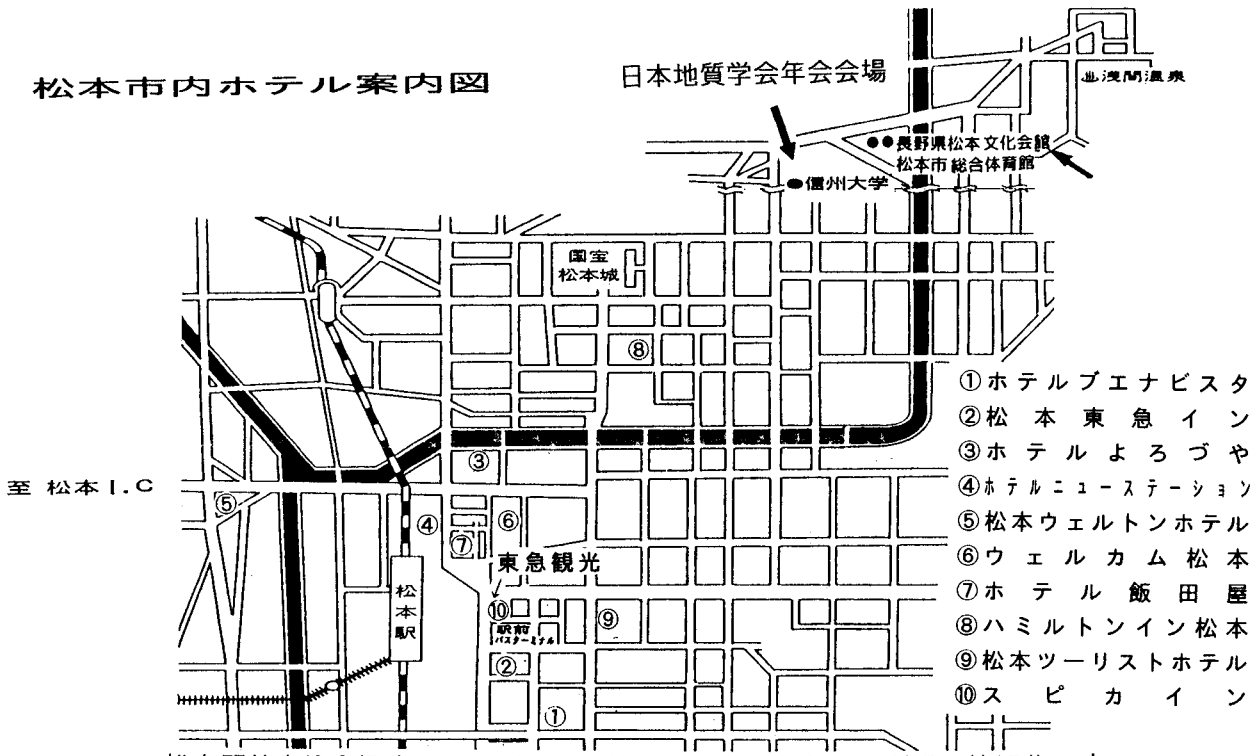
変更・取り消しがある場合はは早めにご連絡下さい．電話による変更・取り消しはできませんので，かならず文書で（Faxかハガキ等）でご連絡下さい．取り消し料は下記のとおりです．取り消し・変更による返金の精算は，事務手続き上，学会終了後になります．

＊宿泊の取り消し料

利用日の14日前から2日前まで	20％
利用日の前日	50％
利用日当日および無連絡	100％

＊航空券の取り消し料

通常片道運賃	出発4日前から便出発時刻まで	出発時刻以降
10,000円以上20,000円未満	2,420円	4,420円
20,000円以上30,000円未満	3,420円	6,420円



※松本駅前より会場までは、バス利用約20分です、タクシー利用で約15分です。

第１０５年日本地質学会松本大会　申込書（宿泊・航空券）

申込 代表者名	書類送付先　〒 住　所	連絡先 TEL　(　　) FAX　(　　)

	フリガナ お名前	姓別	年齢	勤務先名 電話番号	①宿泊 9/24	9/25	9/26	9/27	同室希望者名 (ツイン希望の方)	②航空券 往路	復路	③ 事務費	①～③のお一人様 合計額
記入例	マツモトタロウ 松本太郎	男	50	松本大学 0263(36)3535	3－S 10,000	3－S 10,000	3－S 10,000	3－S 10,000	No.－3の ○○○○と	IM－2 16,400	IM－2 16,400	500	¥ 73,300
1												500	
2												500	
3												500	
4												500	
5												500	

【備考】

総合計額　¥

ご返金の際の口座番号をご記入下さい	銀行名 支店名	銀行 支店	普通・当座 No.	名義	

※必要事項をご記入下さい。（ホテルタイプ・航空券にはそれぞれ記号をご記入ください。）

※申込書はFAXまたは郵送にて右記申し込み先へお送り下さい。

（郵送の場合は控えをお取り置き下さい。）

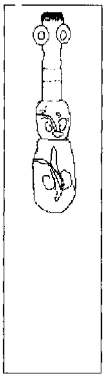
東急観光（株）松本支店
〒390-0815　長野県松本市深志1-2-1
☎(0263)36-3535・FAX (0263)33-7549
担当：北原・平林・生田・久納

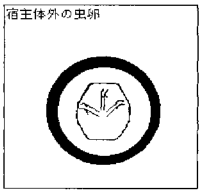
振込先銀行：八十二銀行
松本駅前支店
口座番号：(普)６４８３２０
口座名：東急観光(株)松本支店

野外調査でのエキノコックス感染にご注意を！

－かわいいキツネと犬が媒介する恐い寄生虫－

地質調査所　三田直樹





第1図．寄生虫が動くイラストもついている，迫力ある，北海道大学獣医学部寄生虫学教室のホームページ「旅をする寄生虫」．

1.　あなたと周囲の人のための警鐘

桜前線が日本列島を北上しています．例年ならば最終地の北海道で5月末頃には終了するところでしょうが，今年の暖かさからするといかがでしょうか？これからは，世間一般の人々が野外にでかける楽しみな時期の到来であり，また，われわれ地球科学系の人間にとっては，野外調査がスタートする時でもあります．具体的なプランを立てている人も多いでしょう．

そんなタイミングに，感染したことが後で判明してからでは手遅れなので，今のうちに知っていて予防して欲しい，野外での恐ろしい感染症の一つ「エキノコックス症」を紹介します．この感染症のことは，北海道に在住の人や時々訪問する人はご存じでしょうが，道外の人には殆ど情報が伝わっていません．なかには「北海道だけのことだから自分の地域には関係無いことだろう」と考えている人もいるかもしれませんが，専門家から「本州も感染地域になる可能性」が警告されているのです．また，海外にも感染国がありますが，北海道での研究成果を手本にして対策がたてられています．1998年8月18日～8月20日に札幌（北大学術交流会館）で，文部省国際シンポジウム「エキノコックスの環境適応性—現状と対策の展望」が開催されます．北海道大学獣医学部寄生虫学教室のホームページ「旅をする寄生虫」（第1図），
http://www.hokudai.ac.jp/veteri/organization/dis-cont/parasitol/
を参考にして下さい．

2.　私の体験から危惧すること

こういう話を書き始めた私自身，10年ほど前から北海道東部で調査を開始した時には，エキノコックス感染症のことに関して無知に近い関東地方の人間でした．当時，地元の人からその存在を教えてもらって恐さに驚き，生水を飲まないように，また，キタキツネ（以下，単にキツネと記す）には直接・間接的に接触しないように，できるだけ注意してきました．

ところが，餌を与える観光客やゴミ箱の設置などに起因するのか，人に馴れたキツネと遭遇することが目立つようになりました．彼らが「かわいい！」と叫んでキツネに触ったり餌を与える場面によく出会いますが，案内している旅行社では当然ながら感染の危険性を知っているはずなのに，どうも観光客たちの反応からみる限り，まるで「危険性を教えられていない」ようにすら感じられます．一例ですが，阿寒国立公園の阿寒湖ビジターセンター前の広場には定刻になるとキツネが出現し，オンネトー湯の滝（本誌1994年10号の口絵）入口駐車場のゴミ箱周辺にも観光客と戯れる姿を目にします．観光客たちは私達に危険性を知らされて驚き，キツネから慌てて離れるのですが，とても心配な光景です．

何も知らない北海道外からの一般の人々の安全のためにも，飛行機，JR，フェリー，観光バスや観光パンフレット等を通じて，正しい知識と注意事項について積極的に啓蒙し，むやみにキツネや他の野生生物を呼び寄せることにつながるゴミ箱設置などは止めるなど，早急に改善すべきではないでしょうか．

3.　広がるエキノコックス症

パソコン通信サービスNIFTY-Serveの産経・読売・毎日新聞データーベースを利用して，最近の2年間の記事からエキノコックスを検索したら1998年3月19日現在で，毎日に7件，読売に3件，産経に1件の記事が掲載されていました．もちろん，北海道新聞などの地元紙には，よく出現しています．そこで，最新情報である産経新聞の

産経新聞　平成10年(1998年) 2月18日　水曜日　12版　14

生活ライフ

死に至る寄生虫病　エキノコックス症

「エキノコックス症」を知っているだろうか？　キタキツネを介して人間に感染し、がんのように内臓を侵して死に至ることも多い寄生虫病だ。主な発生地である北海道ではキタキツネの感染率が四割に迫り、飼いイヌからも検出されるなど人間への感染ルートが広がる兆しを見せている。本州でも"対岸の火事"とはいえなくなったエキノコックス症をリポートする。（鵜野光博）

エキノコックスは体長五ミリ前後の小型サナダムシ。成虫は主にキツネの腸に寄生している。イラストのように、フンと一緒に体外に出た卵をネズミが食べ、そのネズミをキツネが食べる－という輪の中で繁殖しているが、この卵が人間の口に入ることで感染するのがエキノコックス症だ。

人間への感染ルート広がる恐れ

キタキツネの感染率は4割に　本州でも64人が患者と判明

体内に入ったエキノコックスは、約十年の潜伏期間を経て、主に肝臓に取り付いて増殖を始める。細胞が血流に乗って肺や脳に転移することもあり、がんと誤診されることも多い。根本的な治療薬はなく、手術で切除するのが確実だが、発見が遅れれば臓器不全で死に至る。

エキノコックス症と認定された患者は、北海道で累計三百六十二人（平成九年三月現在）、本州でも六十四人が見つかっている。北海道では毎年五－二十人が新たに認定されており、このほかにエキノコックスへの抗体を有している要観察者が四百－五百人いるとされる。

このエキノコックスをめぐり、神谷正男・北海道大学教授（獣医学）ら研究者は、ここ数年に起きている"異変"を指摘する。

まず道調査によるキタキツネの感染率。過去三十年間の平均が約一五%だったのに対し、六年度二四・八%▽七年度三八・〇%▽八年度三八・五%－と近年は特に高率を示した。増加傾向にある理由は不明だ。

第二に、新規患者のうち都市生活者が占める割合が増えたこと。従来は畜産農家などキツネの生活地域に多い病気だったのが、昨年五月に札幌市以外に住んだことのない男性がエキノコックスに感染していることが分かり、関係者に衝撃を与えた。北海道の都市部で近年、えさを求めて民家近くまで来るキツネが多く目撃されるようになったこととと無縁ではなさそうだ。

神谷正男北大教授

かわいらしいキタキツネだが、直接手を触れないなど"付き合い方"には注意が必要だ

さらに、札幌市近郊の江別市で昨年、エキノコックスに感染した飼い犬が初めて見つかった。イヌへの感染率はこれまで一%前後を推移してきたが、その調査は十頭前後のイヌを解剖しただけで、「これだけの調査では実態はつかみきれない。またキツネの四〇%より、イヌの一%の方が人間には影響が大きいかもしれない」（神谷教授）との指摘もある。道外の人がエキノコックスに感染する原因としては、▽観光地でキタキツネに触れる▽キツネの生息地域で沢水を飲む－などが有力視されてきた。これらは注意さえすれば感染を予防できるが、イヌへの感染が広まれば、人間への感染ルートも大幅に増えることになる。

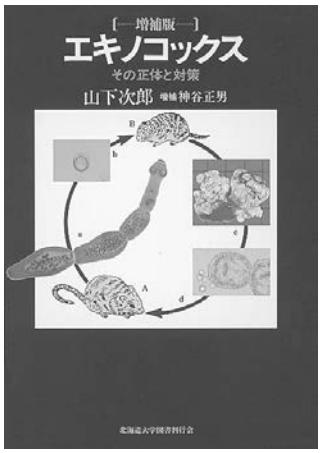
神谷教授は「イヌを連れて北海道に来るハンターも多いが、山歩きの際に幼虫を宿したネズミを食べれば感染する。また感染したイヌが引っ越しで本州に来る可能性も十分にあり、本州が北海道のような感染地域になる可能性は十分ある」と警告する。

懸念が増える一方で、対策も進展している。北大獣医学部の寄生虫学教室では昨年秋、キツネやイヌのフンに含まれる糞便内抗原（エキノコックス成虫に特有の代謝産物）を検出して感染を確かめる診断法を、世界で初めて開発した。

従来の調査が解剖によって行われていたのに対し、新診断法は飼い犬に対しても気軽に行えるのが特長だ（診断法の問い合わせは、「アマネセル」☎011・530・2531）。また同教室ではワクチン開発の研究も進められている。

北海道におけるエキノコックスは、アラスカのセントローレンス島のものと遺伝子が類似しており、昭和初期に野ネズミ退治のため礼文島に持ち込まれた感染キツネが源と推測されている。神谷教授は「そもそもは人為的に北海道のキツネにもたらされた病気。駆除を実現することは、キツネにとっても本来の姿を取り戻すことになる」と話している。

第2図．産経新聞（1998年2月18日の朝刊．全国版）が報じた，エキノコックス最新事情．



第3図.「増補版　エキノコックス」の表紙. 山下次郎　増補 神谷正男　著, 北海道大学図書刊行会発行（横13.5 cm × 縦 19.5 cm, 274ページ, 2,800円＋税).

記事（第2図）を紹介します．なお，筆者が神谷教授（後述）に問い合わせて，一部補足した部分があります．

エキノコックス感染者は死に至ることが多く，ガンと誤診されることも多い，恐ろしい病気です．肉眼ではわからない寄生虫卵は，人間の口から体内に入り，やがて約10年の潜伏期を経てガンのように内臓を侵し発病します. 主に肝臓に寄生しますが, 肺，目，脳などにも転移することもあるそうです．

感染ルートは，昭和初期に野ネズミ退治のために礼文島に持ち込まれた感染キツネが源と推察されていますが，この島から同症は既に撲滅されています. この寄生虫は, 成虫の体長が5 mm程度の小型サナダムシです．幼虫を宿した野ネズミ（エゾヤチネズミなど）をキツネが捕食して感染します．現在ではキツネの4割が感染していますが, 最近, 飼い犬の感染も検出されました．感染キツネの糞便に含まれる寄生虫卵は, 何らかのルートで経口的に人に感染しますが,「人と人の間では感染しません」から過剰な心配はしないで下さい．

しかし，1997年に札幌市近郊の飼い犬から初めて感染が検出され，同年5月には札幌市以外には住んだことのない人の感染が判明しました．更に，本州でも64人の患者が判明しています．また，エキノコックスなど寄生虫の研究で著名な神谷正男教授（北海道大学獣医学部寄生虫学教室）は,「ハンターらによって北海道に連れてこられた犬が感染したり，感染した犬が引っ越しなどで本州に移動すると，本州が北海道のような感染地域になる可能性は十分にある」と警告しています．

4.　ころばぬ先の杖「科学的な知識」

このような実態をよく目にしていたので，素人ながらエキノコックス感染症の蔓延する可能性に危惧を抱いていました．私自身も注意していたつもりですが，次第にキツネを目にする機会が多くなるにつれ，知らずして感染しているのではないかと心配になります．北海道を調査するようになって10年近くになるこの頃は，感染していたら発病する可能性のある時期でもあるからです. エキノコックス症が心配な人は, 北海道の保健所に相談して血液検査（数年前の料金は，580円）をして下さい．早めに見つけて治すために，総合的な診断を行っています．

このように，私たちの周囲には危険が潜んでいます．それに対する科学的な知識を持って野外調査に臨むことで，感染症にかかる機会から免れたいものです．そこで，最近出版された本『増補版エキノコックス－その正体と対策』（第3図）を紹介します．

本書は，故山下次郎教授（北海道大学）によって専門書のレベルを維持したまま平易に，エキノコックスに関心のあるすべての人を対象に書かれ，出版以来20年にわたって読み継がれてきた前版『エキノコックス』に，神谷教授が「感染地域の拡大」と感染源対策の進展」という新たな状況を踏まえて巻末に新しい知見を増補したもので，1997年12月25日に出版されました．

5.　新検出法で自然との上手なつきあいを

北海道に棲息するキツネは，もともとエキノコックスに感染していたのではなく，人間の都合によって持ち込まれたらしいことを考えれば，感染症の被害者でもあるわけです．また，毛皮を入手するために人間が繁殖させたこともあったのでした．そんな歴史を知ると，キツネを感染から解放してやることが人間の罪滅ぼしかも知れないと，ふと感じることがあります．神谷教授も同趣旨のコメントを新聞にしていました．

北大獣医学部の寄生虫学教室では，キツネや犬の糞便内抗原（エキノコックス成虫に特有の代謝産物）を検出して感染を確かめる世界初の診断法を開発しました．従来の解剖による方法と比べると, 画期的です．問い合わせは，アマネセル（011–530–2531）までお願いします．しかし，根本的には感染源対策なくしては新たな感染を防げませんから，このままでは患者が増える一方なのです．神谷教授によると「成虫の駆除すなわちワクチン化の可能性も出てきた」ということですが,「しかし，研究費・設備・人員・世間の理解状況は，極めて厳しい．これからがエキノコックスとの本当の闘いです」とも語っています．私も北海道とその自然を愛する一市民として，対策関係者の皆さんの御活躍に期待する次第です．

本稿を参考にして自然との上手なつき合い方を考え，気をつけて野外調査に臨んでいただきたいと思います．終わりに，筆者からの問い合わせに対して，多忙にもかかわらず丁寧に回答して下さった神谷教授に謝意を表します．

博物館だより

夜明けの森きらめきパーク「中津川市鉱物博物館」開館

“苗木石”で有名な岐阜県苗木に標記博物館が，1998年5月1日開館いたしました．この博物館と，「青邨記念館」「苗木遠山史料館」「子ども科学館」が一体となって事業活動を進めています．開館時間は9時30分から午後5時まで（入館は4時30分まで）．休館日は毎週月曜日，12月27日から1月5日．入館料　一般310円，小・中学生　100円

所在地は〒508–0101　岐阜県中津川市苗木639–15

電話　0573–67–2110　Fax　0573–67–2191.

「鉱物博物館」では特別企画として，5月1日から8月まで「レジストロからの贈り物」を開催し，10月より「苗木石と日本の地球化学の誕生」を開催予定.

(博物館　パンフレットより)

信州新町化石博物館
Shinshushinmachi Fossil Museum

信州新町化石博物館　学芸員　成田　健

信州新町は長野市の西隣に位置し，中央を流れる犀川沿いのわずかな平坦地を除き，ほぼ全域が傾斜地となっており，標高600 mを越える尾根のすべてが，北アルプスを望む絶好のポイントです．

この山々は中新世後期から鮮新世前期に堆積した地層からなり，古くからクジラの化石が産していることで知られており，長野県の天然記念物にも指定されているものもあります．

信州新町出身の故・西沢勇氏は幼いころ，故郷で出会ったこのクジラの化石がきっかけで，化石の世界に魅せられました．世界各地から集められた約6,000点にも及ぶコレクションは，西沢氏の亡き後，夫人によって信州新町に寄贈されました．信州新町化石博物館はこの“西沢コレクション”をもとに，1993年12月11日に信州新町美術館・有島生馬記念館の隣に開館し，今年は開館5周年を迎えます．

施設は，地上1階・地下1階の2階建てで，総面積1,093 m^2，展示室（326 m^2），ホール・ラウンジ（78m^2），研究室（28 m^2），地階は第一・第二収蔵庫（計306 m^2），会議室兼教室（52 m^2），展示準備室（48 m^2），暗室などがあり，小さい博物館ながら学習や研究活動もできるように配慮されています．

スタッフは館長1名・副館長1名・専任の学芸員1名のほかに5名の館外研究員の協力を得て，展示活動・研究活動・教育普及活動を行っています．

展示活動

信州新町化石博物館では常設展示と企画展・特別展を催しています．

常設展示は約300 m^{2}のスペースをFossil LaboとFossil Worldの二つに分け，それぞれ以下のような展示をしています．

○Fossil Labo

ここではロボットの新町博士とホタテガイの化石との会話やビデオ映像を交えながら，化石のできかた・採集・クリーニングまでを紹介します．（写真）

○Fossil World

Fossil Worldでは，中央にジュラ紀の恐竜アロサウルスがカンプトサウルスを襲っている様子を，左壁面には生物が現れてから現在までの大パノラマを（写真），そして右壁面には信州新町から産したクジラの想像図をグラスファイバーを用いて展示しています．

展示内容は西沢コレクションを中心に化石から分かることについて以下のようなテーマで展示しています．

- ●時系列展示　古生代から新生代の代表的な化石の展示
- ●テーマ展示　三葉虫・アンモナイト・生痕化石・魚類の進化・植物化石・生きている化石・歯と食性・小さな化石などの展示
- ●北部フォッサマグナ地域の化石　信州新

町周辺の鮮新世の貝類化石を中心にクジラの化石を展示

○企画展・特別展

企画展は年2回，特別展は年1回を企画展示室にて催しています．企画展では西沢コレクションを分類的なテーマを設けて順次公開しています．

また特別展では信州新町が北部フォッサマグナ地域に位置することから，“フォッサマグナの海”をメインテーマとして，「信州新町周辺の地層や化石（1995年）」「別所・青木累層の化石（1997年）」をこれまでに開催しており，今後も周辺の地質や化石に関する紹介を計画しています．

教育・普及活動

○主催行事

多くの方に化石に興味を持っていただくために，以下のような行事を月1回のペースで開催しています．

- ●化石教室　実際にフィールドでの化石の採集とクリーニング．
- ●レプリカ教室　アンモナイトや三葉虫など展示標本のレプリカの作成．
- ●クラフト教室　レプリカを入れる木製のケースや恐竜の木製クラフトを作成．
- ●地層観察会　周辺の地層の見学や化石採集
- ●文化講演会　大学・博物館の研究者の講演
- ●自然史セミナー　学芸員がテーマを設けて講演
- ●ビデオ上映会　古生物に関するビデオの上映

○地域の学校との協力

小中高等学校の学習の場として，展示の解説，化石の採集とクリーニングの指導，レプリカの作成などを行っています．学習内容については学校の希望に応じて計画・対応しています．

○展示解説

団体での来館者に対する詳しい説明も，スタッフのできる範囲で対応しています．

資料収集・保管活動

当館では西沢コレクション6,000点のほかに，採集標本・寄贈標本・寄託標本含めて12,600点を収蔵し，これらの標本を用いて研究を行っています．

信州新町化石博物館の建物としての特徴は，小規模ながら常設展示室とほぼ同等の面積をもつ収蔵庫が挙げられます．建設当初から収蔵庫がすぐに足りなくなるとの指摘から，移動棚を設置し将来的に増設できるように，収蔵庫内はレールを設置してあります．現在収蔵標本は主に台帳にて管理を行っていますが，現在データベースへの移行と画像データのCD-ROM化を進めている段階です．

将来的にはデータベースを発展させて，来館者用やホームページ上での検索ができるように計画しています．

研究活動

開館から進めてきている調査・研究の成果として，98年3月に信州新町化石博物館研究報告第1号を出版しました．第1号では近隣で発見したセイウチ亜科の頭蓋骨化石に関する論文を掲載していますが，今後の化石博物館のシンボルともなるもので，これらの研究成果は展示にも活かしていきたいと考えています．

さらに研究に重点を置けるように活動していきたいと考えています．

情報発進

昨年3月より信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館のホームページを開設しました．ここでは年間の行事予定，展示内容，行事の様子や利用案内などを紹介しています．

ホームページはhttp://www.asahi-net.or.jp/~ax5k-nrt/index.htmlにて公開しています．

利用案内

・開館時間
午前9時～午後5時（入館は午後4時半まで）

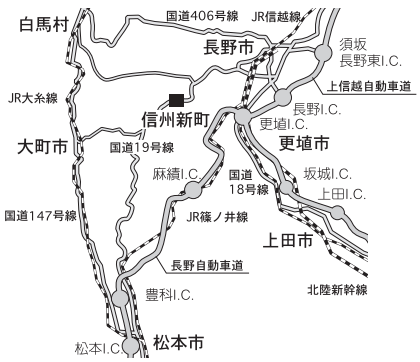
・休館日
毎週月曜日，祝祭日の翌日，および年末年始

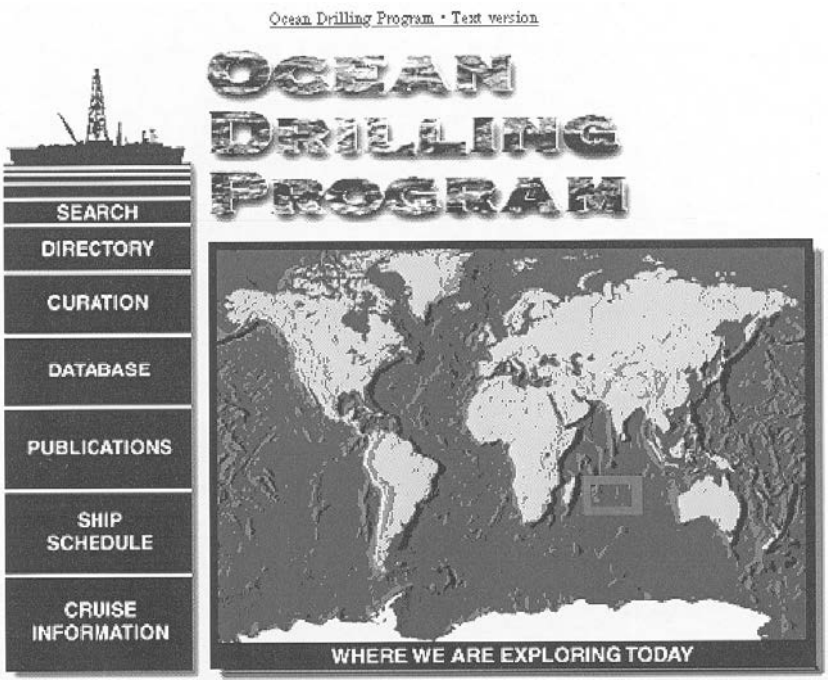
・入館料
高校生以上500円（400円）
小・中学生250円（200円）
※（　）内20名様以上団体入館料
信州新町美術館・有島生馬記念館と共通です．

・交通案内
〈JR・バス〉
JR長野駅下車．長野バスターミナルより，川中島バス新町・大原行き，美術館前下車．
〈車〉
国道19号線長野から35分．松本から1時間
県道川口～大町線．大町から45分．
長野自動車道豊科I.C.または更埴I.C.，上信越自動車道長野I.C.から40分～50分

・所在地
〒381-2404 長野県上水内郡信州新町上条
電話 026-262-3500，Fax 026-262-5181

・ホームページ
URL http://www.asahi-net.or.jp/~ax5k-nrt/index.html
E-mail ax5k-nrt@asahi-net.or.jp





海洋科学掘削計画（Ocean Drilling Program）のページ

(http://www-odp.tamu.edu/) ⑨

（東京大学地震研究所火山噴火予知研究推進センター　中田節也）

JOIDES Resolution号を使った最近の海洋掘削の成果や将来の研究計画を紹介しているODPの公式ホームページである．Texas A&M Universityにある．ODPの歴史に始まりJOIDES Resolution号の紹介，過去の航海とサイトの図表での紹介，予定されている航海の案内などがある．船の性能，船内各フロアーの部屋や実験室の紹介がある．そこでは，JOIDESの下に潜って，船底から降りてくる（目の前に迫ってくる）ボーリングビットを3D画像で見ることができる．

1998年4月現在の最新情報としては，Leg154の成果，Leg168と169SのInitial Report，4月中旬に終わるLeg178航海の作業風景や乗船者の写真も紹介している．また，1998年4月から6月にかけてインド洋Ninetyeast Ridgeを中心に行われるLeg179についても，調査項目や目的について図表入りで詳しく解説されている．この航海では，勾配を持つ岩場や破砕された溶岩を掘削をするための技術開発として，hammer-drill–in casing systemを試みることが紹介されている．これは水圧破砕しながら海底にケーシング孔を突き刺していくもので，ケーシング固定後，孔口に再投入用漏斗をセットして，将来の繰り返し掘削を可能しようというのである．この種の方法は，一部で圧搾空気を用いて試みられているが深海向きではなかった．この技術の開発により，海底地形や表層物質の種類に捕らわれず，より深部まで掘削することができるという．この航海のもうひとつの目的はNERO（Ninetyeast Ridge Observatory）計画とよばれるもので，国際海洋ネットワーク計画の一環として，海底に地球物理学の観測点GOBO（Geophysical Ocean Bottom Observatory）を設けることである．ここ

JOIDES Resolution

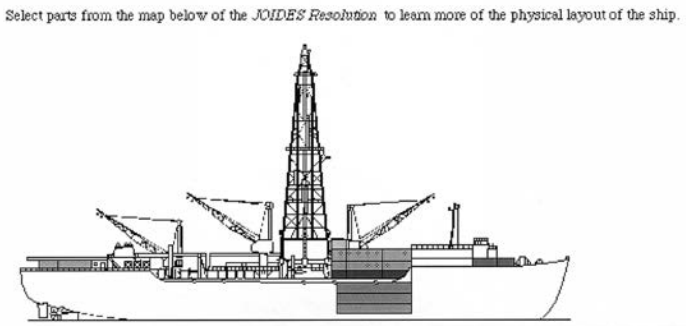
JOIDES Resolution

Drillship of the Ocean Drilling Program

数年の地球の内部研究に関する飛躍的な発展を背景として，さらに，地球深部の正確な物理情報を得るために，海底に地震・地殻変動・地磁気などの観測機器の設置を試みるものである．ここでは，過去には数十mだけ掘削されたことのあるサイトを利用し，少なくとも100–200mの深さにわたって玄武岩基盤を掘削して，計器をセットする計画が立てられている．

このほか，将来の航海（1999年度）についての事前会議報告書などを図表入りのPDFファイルでダウンロードできるようになっている．また，船内の実験装置の写真や作業風景などが見られる．航海参加したい研究者には，乗船研究者の分野ごとの任務が書かれており，インターネットで直接乗船申込ができるようになっている．Leg100–158の全ての概要，Leg 159–175の速報，さらには，最近の航海（Leg176以降）の週間報告なども見ることができる．

ODPで海底から採取された試料は，定められたポリシーにしたがって，研究はもちろん，展示や教育のためにも使用することができる．この種のサービスには，想像を超えるような労力と奉仕の精神が背景にあると想像される．日本での海洋研究は，多くの研究者に門戸が必ずしも広くは開かれていなかった印象が強いが，このホームページを見るとその思いが払拭される．インターネットを活用して，研究船，航海目的，成果のすべてを公開することによって，より多くの研究者が海洋研究に積極的に参加したくなる土壌を提供しているように思われる．



溶結凝灰岩地域に
建設中のダム

川崎地質(株)は昭和18年にボーリング機械メーカーとして発足して以来，わが国最初の地質コンサルタント（地質調査業者登録第1号）として発展し，55年目を迎えています．昨年は株式の店頭公開を行うとともに，業界初のISO9001の認証（関東支社）も取得し，国際的にも対応できるコンサルティング業務の品質保証体制をスタートさせました．さらに総合建設コンサルタントへと発展すべく，インフラ構造物の保全，地質災害予測などの分野に裾野を拡大しています．

1.　地質・土質分野および防災

最近，わが国におけるインフラ構造物の建設条件はしだいに難しくなりつつあり，これを反映して事前に行われる地質・土質調査は高度化しています．特に，大深度地下や沖合人工島，軟弱地盤，地滑り地帯での構造物については，当社では調査結果を入念に解析し，適切な工法・対策と建設サイト選定のためのデータを提供しています．

当社は各地で地滑り計測や斜面安定性の評価，地盤沈下計測，盛土の法面対策などを行っており，地震関連では，活断層調査や大深度ボーリング孔への地震計の設置，大都市地域の地盤の地震時応答特性や液状化のシミュレーションなどを実施しています．また，土壌汚染や環境地質の問題にも取り組んでおります．

2.　海洋調査技術

海に囲まれたわが国では，新規構造物建設の舞台が海域に移りつつあります．当社が独自に開発した音波探査技術は，1）関西国際空港や本四架橋のような長大架橋，海底トンネルなどの建設に伴う海域の地質構造調査や，2）シーバース，防波堤，港湾建設などの土木工事のための地質調査，3）湖沼，河川，ダムなどにおけるヘドロの分布や堆砂量調査，4）天然ガス・石油の資源・エネルギー関連調査で威力を発揮しています．

このほかに，紀淡海峡，東京湾口，伊勢湾口などの精密海底地形の調査や，海域の活断層調査，また海底重力計，海底磁力計，海底地震計による海底地質構造探査も行っています．

3.　物理探査技術

当社は地中レーダや電磁波トモグラフィのパイオニアです．地下埋設物や遺跡，地下空洞，活断層の調査に多くの実績があります．エジプトの遺跡「第2太陽の船」の部屋もこの方法により発見しました．最近は都市部の地下が種々の近接工事のために複雑化し，工事の際に空洞や埋設物の存在を確認する必要が多いため，レーダ探査の需要が増しています．

また，人工震源（スイープ震源）を用いたP・S波の反射法による地質構造調査にも定評があります．この方法は，1）工事の事前調査として，軟弱層の堆積状況や支持層深さ，地層の連続性の確認，2）災害予測として，地上に露出していない活断層や破砕帯の位置の確認に威力を発揮しています．

このほかにも各種トモグラフィの技術がありますが，いずれも現地調査からデータ処理，地質解析まで，物理探査部門と地質部門がよく連携し，正確な地質情報を導き出すようにしています．

海上での音波探査風景

4.　構造物の健全度診断技術

わが国を含む先進国では，高度成長期に建造された多数のインフラ構造物が老朽化し，維持・更新の時期にきています．当社では構造物の地中部分から地上部分まで，種々の方法を駆使して劣化診断を行っており，基礎部分の地質の耐力判定から構造物の補強設計まで，一貫して対応できる体制を整えております．

これまでに震災を受けた基礎杭の健全度調査や，河川・港湾構造物・トンネル覆工背面の空洞調査，道路構造物の点検，飛行場の舗装の維持調査を行ってきましたが，最近ではコンクリート本体の劣化診断（塩害，凍害，アルカリ骨材反応，化学的腐蝕，施工不良など）や骨材の適性評価など，建設資材の耐久性評価も海外にまで対象を拡げて実施しています．

このための試験室を開設し，低真空型走査電子顕微鏡，X線回折装置などの分析装置を揃えております．軽元素型EDSによる定量分析や無蒸着元素マッピングも可能で，コンクリートの変状や骨材中の有害成分の検出，使用混和材の同定，セメントの性質の判定などが，100年前の硬化コンクリートでも可能となりました．

5.　地質学界との関係

大学の地質学の研究内容は，そのまま業務となることは少ないものの，技術的業務の基礎知識として大変重要です．但し，高度で多様化した社会の技術需要に応えていくには，技術者としての他分野での新たな勉強と再教育が必要です．

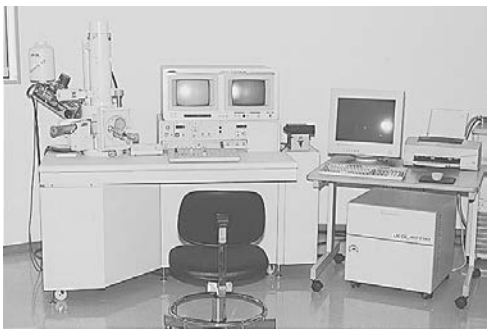
当社は地質学的データを工学的・環境地質学的に評価判定し，実際の設計や建設工事の場面で的確なコンサルティングを行えるように，官・学・民との共同研究も実施しています．

興味を持たれた方は，社内ネットワークも結ばれていますので，下記のホームページにもアクセスしてみて下さい．

（技術本部　片山哲哉）

会社概要

社　名　川崎地質株式会社
本　社　〒143–8554 大田区大森北1–11–1
電　話　03–3763–7721（代表）
資本金　8億円
売上高　114億円（平成8年度）
代表者　代表取締役社長　村上順雄
従業員　426人（平成10年4月）
ホームページ　http://www.kge.co.jp/



走査電子顕微鏡（EDS/SEM）

地学英語雑感③　良いセンテンスをつくる―1

嶋崎吉彦

前回は，国連エスキャップ事務局の文書担当者が英文報告書や論文を書く時の留意事項を，短く簡単な箇条書きにしたものを紹介した．これは，とかく陥り易い「悪文つくり」を非公式かつ簡単に戒める目的で作ったものであって，非常に極端な形と内容になっている．したがって，これだけでは，なかなか満足できる英文は書けない．しかし，この目指している方向には筆者は賛成なので，これをベースに，さらに進めて少し詳しくセンテンスの内容などを含め，筆者の経験やUSGSの“Suggestions”などをもとに，良いと考えられているセンテンスのつくり方を紹介する．

いうまでもなくセンテンスは，文章の基本単位であるから，わかり易いセンテンスを書くことに英文を書く努力の大半が費やされるのは当然であろう．今回は，⑴センテンス全体のまとまり，⑵センテンスの構造，⑶センテンス中の言葉の配置，の3項目について述べる．

日本語は比較的長い文（sentence）でも読みずらくない言語であることは事実であろう．しかし，前回も述べたように英語では，必要以上に長い文は余程うまく書かないと読み難い．これは，日本人だけではなく，多くの非英語国人についても言えることのようである．

(1) センテンス全体のまとまり

まずセンテンスには，まとまり（unity）がなければならない．すなわち一つの「考え」あるいは「事実」を述べ，これを展開することにすべての言葉を用いる必要がある．これは，後に述べるパラグラフについても同様である．これ以上であっても，以下であっても読者にはわかり難いものになり易い．故に，我々に取っては，二つ以上の「考え」を一つのセンテンスで展開することは避けた方が賢明であろう．

(2) センテンスの構造

“Suggestions, ed. 7”では，センテンスの構造上陥り易い悪例として，早く終わりすぎるもの，すなわち一つの「考え」が完全に示されないで終わってしまう場合；と遅く終わりすぎるもの，すなわち一つ以上の「考え」「事実」を適当な接続詞あるいは句読点などを打たずに長々と続けるものを挙げている．前者をsentence fragmentと称し，後者をrun-on sentenceと称して戒めている．前者の例として“Although the sandstone is interbedded with shale.”が挙げられているが，これは完全な一つの「考え」を示していない．この間違いは明瞭であろう．後者の例としては“Another interesting study was by Stephanic (1981), his primary objective was to compare the geochemistry of the two types of deposits.”が出ている．これは一見何も問題はなさそうに見え，我々も良くやりそうである．しかし関連はあるが独立した二つの節をつないでいるから（1981），の後にandを入れなければならない．この2例はセンテンス構造上，二つの極にあるものであるが，筆者の経験でも比較的頻繁に出てくる悪文例で，前者についてはそれほど問題なく理解されると思うが，後者は；and, but, or, for, nor, so, yet, still等の接続詞（coordinating conjunctions）でつなぎ，その前に必ずコンマかセミコロンを打たなければならない．上の例文等は簡単な文なので悪くないが，多くの場合，我々にいちばん良いのは，最初の節の終わりでセンテンスを切って新しい文にすることではなかろうか．

前回センテンスはできる限り短く切ることを鉄則とする話を紹介し，筆者も賛成である旨述べた．しかし，英文を書きなれている人は以下に留意されると良いであろう．すなわち“Suggestions, ed.5”では，もし構成が良くてスムーズに読めるセンテンスであれば，長くても悪くない（not objectionable）としている．また余りにもこま切れのセンテンスの羅列は読み難いとも言っている．ただしこの場合，主要な「考え」を表現する主要な節（principle clause）を明確にし，他の節はこれに従属（subordinate）させるように言っている．つまり主要テーマに関連が無い場合は，同格の節を一つのセンテンス中に並べない方が良いと言うことである．この場合は，after, although, because, unless, when, whereas等の従属接続詞（subordinating conjunction）でつなぐ．これは，英語に自信のある書き手も十分留意されると良いであろう．

次に悪い例として“Suggestions, ed. 7”から引用すると，“The formation exhibits characteristics suggestive of a fluvial environment, and it is red.”地層の色は堆積環境とは無関係なので，“and”でつないで同格に扱うわけにはいかない．また単にsuggestしている特徴にexhibitは少々大げさであろうと言う．したがって，“The red formation has characteristics that suggest fluvial deposition.”か，どうしても地層の色を特筆するならば，“The formation, which is red, has characteristics that suggest fluvial deposition.”などが適切である．さらにもう一つ例を引けば，“Zircon is the only original rock constituent that remains stable throughout the cycle of alunite alteration, and biotite and Fe-oxide minerals are pseudomorphed by TiO_2.”では二つの節は同格な「考え」を示しているものではない．したがって“alteration”の後で切って“Biotite”から新センテンスを始めるか，同格な“and”を従属的な“whereas”で置き換えるべきである．

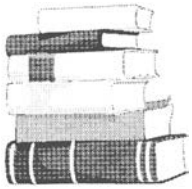
(3) センテンス中の言葉の配置

非英語国人に特に重要と思われる問題は，著者の考えが明確かつスムーズに理解されるようなセンテンスの構成であろう．細かい文法上の問題― 例えばしばしば混乱する代名詞とその先行詞，動詞の過去・現在・未来形，主語と動詞の単数複数の一致など ―については然るべき指南書をご参照願うとして，ここでは言葉の順序・配置について述べる．しばしば筆者の目に付くのは，特定な事柄に関係する言葉はまとめて置かないと非常に読み難く，また誤解され易いことである．これは特に修飾語に多い．“Suggestions, ed.5”に良い例が載っている．引用する；“I told him when the time came I would do it.”これは次のいずれとも解釈され，曖昧で意味不明である．“When the time came, I told him I would do it.”か“I told him that I would do it when the time came.”にすれば意味が明瞭になる．

この点は，米国の地学屋達もよくやる悪文の例らしく，“Suggestions, ed.7”にも相当なスペースを割いて例を沢山挙げている．その幾つかを紹介すれば；“The samples were preserved for analysis in a paraffin-sealed flask.”ではパラフィンで封印したフラスコの中で分析する？　もちろん“The samples were preserved in a paraffin-sealed flask for analysis.”ならば全く問題ない．さらに“We also present a plausible model for the origin of the ore deposits at the Sun Valley mine, Pitkin County, Colo., which until now has lacked a satisfactory explanation.”この文では，“which”が“Colorado”の直後に出てくるので，満足な説明が従来なされていなかったのが“origin of deposits”か“Colorado”か文の構成上はわからない．これの修正文として次の2例を挙げている．①“We also present the first plausible model for the origin of the ore deposits at the Sun Valley mine, Pitkin County, Colo.”②“We also present a plausible model for the origin of the ore deposits at the Sun Valley mine, Pitkin, County Colo. No one had previously studied the origin of the deposits.”筆者には②の修正例が最も理解され易く，良い文と思われる．

また滑稽な文になってしまうことも多々あるらしく，どこかの警察の調書に；“I had been driving my car for 40 years when I fell asleep at the wheel and had the accident.”居眠り運転で事故を起こすまで，40年間ぶっ通し運転し続けていた!!．我々も結構このような文章を書いているようである．留意すべきことではある．

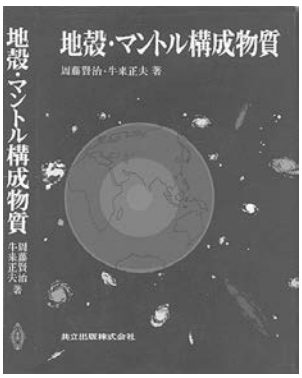
次回は，強調したい事項の扱い，修飾句，その他について述べたいと思っている．



紹　介

地殻・マントル構成物質

周藤賢治・牛来正夫著



〔共立出版　1997年12月発行，330ページ，定価5,000円（本体）〕

ひさしぶりに本格的な岩石学のテキストが出版された．

本書の原形は1968年に同じく共立出版から刊行された牛来正夫著『地殻・岩石・鉱物』である．私がまだ大学に入学していないときに出版されたものであるが，1970年代の初めにはまだ日本語で書かれた岩石学の包括的な教科書が少なく，当時大学に入学したての私など，この本を結構重宝していたことを思い出す．その後著者に周藤賢治氏が加わり，1982年に第2版が出版された．これなども，お読みになった方は多いのではないかと思う．

しかし，今回出版されたものは，そのタイトルが一新されているように，内容的にはまったく別の本であるといってよい．

著者のひとり牛来正夫氏は，いうまでもなく，かつてわが国の花こう岩成因論をリードされ，その後も地球膨張論など，常にユニークな説を唱えられてきた戦後の火成岩岩石学の先達である．また，周藤賢治氏は，東北日本の新第三紀火山岩類の岩石学的研究を，実証的な立場から精力的に押し進めてきたその方面の第一人者であり，日本列島の「グリーンタフ」地域におけるマグマ成因の全体像を完全に書き変えるという，大変に優れた仕事を成し遂げた岩石学者である．ただし，本書は，著者たちの最新の研究成果や独自の見解を述べたものではなく，あくまでも地殻・マントル構成物質に関する客観的な教科書として書かれている．以下にその内容を紹介する．

第1章　造岩鉱物
- 1–1　造岩鉱物の化学組成
- 1–2　鉱物の結晶形と結晶構造
- 1–3　造岩鉱物

第2章　火成岩
- 2–1　火成岩の産状
- 2–2　火成岩の組成
- 2–3　火成岩の種類
- 2–4　マグマの生成・変化と火成岩の多様性
- 2–5　東北日本の後期新生代火山活動

第3章　堆積岩
- 3–1　堆積岩の形成過程
- 3–2　堆積岩の種類

第4章　変成岩
- 4–1　変成作用の種類
- 4–2　変成岩の種類
- 4–3　変成分帯
- 4–4　変成相と変成相系列
- 4–5　変成帯の圧力－温度－時間経路－P–T–t path
- 4–6　高温型変成帯における岩石の溶融
- 4–7　日本の広域変成帯

第5章　イン石と月の岩石
- 5–1　イン石の種類
- 5–2　南極イン石
- 5–3　イン石の起源
- 5–4　イン石中の鉱物
- 5–5　月の岩石
- 5–6　金星と火星の岩石
- 5–7　月の鉱物
- 5–8　月の内部構成

第6章　地殻とマントルの構成
- 6–1　地球の内部構成を知る方法
- 6–2　地球の内部構成
- 6–3　地殻の構成
- 6–4　モホ面の意味
- 6–5　マントルの構成
- 6–6　核の構成
- 6–7　大陸地殻の進化にまつわる2，3の問題

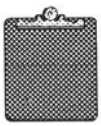
以上のように，本書の内容は，造岩鉱物，堆積岩，変成岩から惑星・イン石にいたるまできわめて多岐にわたっており，しかも最新の知識が，大変に要領よくまとめられた労作といってよい．これだけの広範な分野を2人の著者がまとめるためには，相当な勉強が必要であることはいうまでもない．それを果たした著者たちに改めて敬意を表したい．

これらの項目のうち，5–1「東北日本の後期新生代火山活動」と6–7「大陸地殻の進化にまつわる2，3の問題」は，著者たちの研究成果に基づく見解がまとめられており，よくかみ砕かれて書かれた教科書としての本書において，一種の香辛料の役割を果たしている．

本書は総ページ数が300ページを越える本格書であり，値段も必ずしも安いとはいえない．にもかかわらず，聞くところによれば予想外の好評で，すでに相当数がさばけているという．本書が多くの人々から高い評価を受けている証拠といえよう．

岩石鉱物学の最近の動向の全貌を1冊の本で簡単に知りたい学生，院生，研究者，技術者，あるいは一般社会人には，本書の一読をぜひお勧めしたい．また，地質学，岩石学，あるいは広く地球科学の分野の初心者向けの「地殻・マントル構成物質」学の入門的教科書としても，本書は好適であろう．

（高橋正樹）



ご案内

IGCP 350 “Cretaceous Environmental Change in E & S Asia” : Final International Symposium and Field Meeting

標記研究集会と野外巡検が“GEOSEA ’98 (Ninth Regional Congress on Geology, Mineral and Energy Resources of Southeast Asia)”の一環として開催されます．詳細はDr. R.M. BandまたはDr. T.T. Khooに問い合わせてください．また，この後，タイで下記特別巡検も企画されています．

（岡田博有）

Date : 17–19 August, 1998
Place : Shangri–La Hotel, Kuala Lumpur, Malaysia
Registration Fee : Presenters US$ 100 before 15 July 98 ; US$ 150 after 15 July 98
Participants US$ 200 before 15 July 98 ; US$ 300 after 15 July 98

Post–Congress Fieldtrip :
Date : Aug. 19 night– Aug. 21
Leaders : A.H. Hussin & R.M. Banda
Fee : US$ 250
Title : Mesozoic-Cenozoic of Central West Sarawak
Limit : 20–38 persons

For details please contact :
Dr. R.M. Banda : Geological Survey of Malaysia, Sarawak (Fax : 60–82–415390 ;

e-mail : gsmsar@po.jaring.my)
Dr. T.T. Khoo, Chairman, Scientific Programme Committee, GEOSEA '98 (Fax : 603-756-3900 ; e-mail : geologi@po.jaring.my)

……

Special Fieldtrip in Thailand

Date : 22-26 August, 1998
Place and interests: Non-marine Cretaceous in the Khorat Plateau
Leader : A. Meesook
Fee : US$ 300
Limit : 8-20 persons
Detailed schedule will be issued by June, 1998.
For more details contact Dr. A. Meesook, Geological Survey Division, Department of Mineral Resources, Bangkok, Thailand (Fax 662-202-3754)

バイカル湖研究に関する国際シンポジウム開催

バイカル湖の国際研究組織であるBICER（バイカル国際生態学研究センター），BDP（バイカル湖掘削計画）およびDIWPA（生物多様性国際共同研究計画西太平洋・アジア）の合同国際シンポジウムが，本年11月，日本で開催される．

動物・植物相に豊富な固有種を有するバイカル湖地域は生物進化学的研究にも重要なフィールドであり，地質学的にはいわゆるバイカルリフトとして形成されて，その湖底には漸新世以後の地層が堆積していると考えらている．これらの堆積物は，地球規模の長期間の気候変動や環境変化を記録していることから，湖底掘削コア試料を基にした研究は上記の記録を解読するためにきわめて良好な資料を提供するであろう．バイカル湖研究の国際的な研究組織「BICER」の10年目にあたる今年，国際シンポジウムが開催されることは，バイカル湖研究の最新の研究成果がまとまりつつあることを示すとともに，日本での開催は日本のバイカル湖研究を世界に問うものでもある．

シンポジウムにはロシアをはじめ，アメリカ，ドイツ，イギリス，スイス，などバイカル湖の研究に第一線で取り組んでいる生物，化学，地質学など広い分野にわたって多数の研究者が集う予定であり，日本の研究者の積極的な参加が期待される．

日程と会場：

サテライトシンポジウム　1998年11月3日
豊橋自然史博物館
シンポジウム　1998年11月5日～8日
横浜市　パシフィコ横浜
（プレシンポ，ワークショップを含む）

なお，9日～10日には，ポストシンポジウムが予定されている分野もある．

シンポジウムのテーマ：

Lake Baikal, a mirror in time and space for understanding global change processes

メインセッション：

1） Paleoenvironment and Rift Basin History,
2） Evolution and Biodiversity,
3） Physicochemical Limnology

各セッションでは，キーノートスピーカーが最新の情報について発表し，その他にオーラルとポスターによる研究発表が行われる．

シンポジウムは公開であり，組織委員会では日本BICERの会員・非会員を問わず多数の参加を期待している．なお，参加についての詳しいことは箕浦幸治組織委員長（東北大学理学部地質学・古生物学教室，電話022-217-6617，Fax 022-217-6634，Email ; minoura@dges.tohoku.ac.jp）に問い合わせるか，インターネットでバイカル国際シンポジウムのホームページ<http://w-baikal.nies.ko.jp/>によっても詳しい情報が得られる．

（長谷義隆）

INTERNATIONAL SYMPOSIUM : 『The Ryukyu Islands : the arena of adaptive radiation and extinction of island fauna』

国際シンポジウム『琉球列島（南西諸島）―島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台―』

開催日：平成10年11月5日（木）-7日（土）
会　場：鹿児島大学稲盛会館
主　催：鹿児島大学（本学会後援）
日　程：
11月5日（木）：受付け（午後1 : 00-5 : 00）
（受付けは6日朝で可）
6日（金）：シンポジウム（稲盛会館）
夕方懇親会予定
7日（土）：　〃　（　〃　）
＜Post-symposium Excursion＞
8日（日）：鹿児島（朝）→沖縄，巡検
（那覇泊）希望者のみ
9日（月）：　〃
（那覇泊）希望者のみ

［シンポジュウムの目的］

琉球列島，東南アジアや地中海の島々には，新生代の第四紀更新世前期の低海水準期に，陸橋を経由して大陸から渡来し，島嶼への隔離後，適応放散し，約1万年前に絶滅した陸棲脊椎動物の多くの化石種を産出するほか，現生の固有種が多数生息しており，「種分化の自然の実験室」と言われている．とりわけ琉球列島や地中海の島々におけるシカ類やカメ類化石はその代表的なもので，この中には，種々の島嶼環境に適応した，いくつかのモルフォタイプが識別できるが，それらはその様式において平行進化を示し，それぞれが約1万年前に一斉絶滅に至っている．このシンポジウムでは，1）琉球列島の化石陸棲哺乳類の適応放散・絶滅の，様式と要因について，地中海や東南アジアの事例と比較することによって，島嶼の自然環境変化よる影響，および人類の移住によるインパクトといった側面から考察するとともに，2）絶滅を免れたその他の多くの脊椎動物の遺存種が，現在，島嶼においてどのように固有種化しているか，また，それらの保護はどうあるべきか，等を討論し，研鑽を積むことを目的としている．

●問い合わせ先・申し込み先：
〒890-0065　鹿児島市郡元1-21-35鹿児島大学理学部地球環境科学教室　大塚裕之
電話　099-285-8139　Fax 099-259-4720
e-mail : otsuka@sci.kagoshima-u.ac.jp

●鹿児島大学国際シンポジウム「琉球列島―島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台」実行委員会：〒890-0065　鹿児島市郡元1-21-35鹿児島大学理学部地球環境科学教室代表：大塚裕之
Organizing Comittee, Department of Earth and Environmental Sciences, Faculty of Science, Kagoshima University, Korimoto 1-21-35, Kagoshima 890

（大塚裕之）

第5回テチス浅海域に関する国際シンポジウム2nd Circular配布のご案内

上記国際シンポジウムは以前にも本誌で御案内しましたが，このほど50名以上の講演予定者・課題が掲載された2nd Circularが届きました．その概要は以下のとおりです．

開催期間・場所等：
1999年2月1日～2月5日間にわたり，タイ国チェンマイのチェンマイプーカムホテル（Chiang Mai Phucome Hotel）にて開催されます（Host : Department of Geological Sciences, Faculty of Science, Chiang Mai University, Chiang Mai, Thailand）．

シンポジウムの課題：古生代から新生代にわたるテチス海に関する層序・古生物・古生態・生層序・テクトニクスです．学術講演は4日間の日程を組んであり，参加者は口頭発表およびポスター発表のいずれにも申し込めます（Abstractは英語で300～500字，締め切りは8月15日，Paperの場合は12頁以内）．また本シンポジウム期間中に，ペルム紀に関するIGCPの研究集会も同時に開催される予定です．

巡検：会議前は1月29日～31日，タイ北部のLampang, Phrae, TakおよびMae Sod地域の海成石炭系，ペルム系，トリアス系，ジュラ系の見学で，ルビーやサファイヤなどの宝石市場見学も含まれております．宿泊はSukhothaiとMae Sodが予定されています．会議期間中の2月3日には1日日帰り巡検で，チェンマイとファンの間の古生代末～中生代初期の地質巡検が予定されております．（巡検案内者：Benjavun Ratanasthien, Sampan Singharajwarapan,

Chongpan Chonglakmanee）なお2月6日（土）には有名なChiang Mai Flower Festivalが開催されます．

登録費用：US$ 150（同伴者$100）で12月15日以降はUS$ 180（$120）．これにはAbstract Volume（Proceedings），朝・夕のお茶，昼食，バンケット代金が含まれています．

巡検費用：プレ巡検 US$ 400（12月15日以降は$ 450）
日帰り巡検 US$ 50（12月15日以降はUS$70）

同伴者用観光ツアー（会議期間中の2日間，チェンマイ周辺の歴史・観光）ホテル料金は会議期間中はSingle or Twinとも1泊US$35です（予約は参加申し込み書に書式が同封されています）

支払い：総ての経費は下記の幹事まで

航空券：Thai Airways International Ltd.の特別割引が適用される予定です．

連絡・支払い先：Shallow Tethys (ST) 5 Symposium Secretary, Department of Geological Sciences, Faculty of Science, Chiang Mai University, Chiang Mai50200, Thailand (Fax. 66-53-892261, 66-53-222268)

国内問い合わせ先：
〒305-8571 つくば市天王台1-1-1 筑波大学地球科学系　小笠原憲四郎
電話 0298-53-4302　Fax 0298-51-9764
E-mail : ogasawar@arsia.geo.tsukuba.ac.jp
（小笠原憲四郎）

モンゴルで開催された「1998年生層序学会議」について

モンゴルからの連絡によると，本年4月1日にモンゴル科学院古生物学センターにおいて標記研究集会が開催されました．とりあえず，プログラムにより講演題名をご紹介します．なお，詳しい情報を知りたい方は下記にご連絡ください．

Dr. N. Ichinnorov
Bureau of Geological Investigation
Tel. 331298, Fax 333497
E-mail igmr@magicnet.mn
（水野篤行）

BIOSTRATIGRAPHY MEETING IN 1998
Date : April 1, 1998
Place : paleontological Center, Academy of Mongolia

R. Barsbold "Non-marine Cretaceous and Dinosaurian faunas of Mongolia"
Yo.Khand "late Mesozoic & Cenozoic non-marine ostracods of Mongolia"
D.Badamgarav "Overview oon Paleogene & Neogene stratigraphy of Valley of Lake's"
A.Perlee "Adductor-Femoris musculature & its functional significance on progressive Archaeopteris locomotion"
D. Dorjnamjaa, J. Amgalan, and Ya. Bat-Ireedui "Vendian-Cambrian event stratigraphy of the Zavkhan basin and biochemical origin of Phospho- rites"
Ch. Minjin "Tabulatomorphic corals at boundary Ordovician & Silurian"
Ya. Ariunchimeg "Paleozoic bryozoan of Mongolia"
L. Gereltsetseg "mesozoic % Cenozoic charophyta of Mongoklia"
Ts. Makhbadar "Stratigraphy of terrigenbic rocks in Au-mineralization of Southern Khentii"
J. Sodov "Early Cretaceous flora of the Khuren Dukh"
G. Naymsuren "New formations in South Mongolia"
N. Ichinnorov "New Palynoassemblage fo the Lowere Cretaceous deposit of Bayan-Erkhet"
L. Uranbileg "Upper Permian Cordaitantales of south Mongolia"
T. Tsogtbaatar "New Hadrosaurd fro Dzodogt Formation, Gobi Desert, Mongolia"
G. Sersmaa "Historical review of Lower Devonian Tabulat of Mongolia"

公募

教官公募等の求人のニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

大阪工業大学教員公募

下記のとおり教員を公募しますので，応募くださるようお願いします．

記

所　　属：工学部　一般教育科
専攻分野：地球科学（第四紀学，情報地学，環境科学・災害科学等，地球表層部の地質科学に関連する諸分野）
職名および人員：助教授または講師　1名
採用時期：1999年4月1日
応募資格：
（イ）博士の学位を有する方．
（ロ）年齢40才以下が望ましい．
（ハ）「地球科学」の講義を担当できる方，ならびに「環境地質学」と「自然災害科学」の講義を担当する熱意のある方（経験のある方が望ましい）．なお，上記科目はいずれも共通科目である．
応募書類：
⑴ 履歴書（本学所定の用紙による）
⑵ 業績書（本学所定の様式による）
⑶ 著書・論文（主要なもの3点以内．コピー可）
⑷ レポート（下記のとおり）
Ⅰ・Ⅱ各1,000字程度．様式任意．Ⅱについてはa・bいずれかを選択のこと．
Ⅰ　従来の研究の概要と今後の研究計画
Ⅱa「教育を充実させるため実践してきた具体的事実」
b「就任後の教育に対する抱負」
⑸ 健康診断書（国公立病院，保健所等が発行したもの）
応募書類の受付期限：
1998年7月10日（金）必着
応募書類の送付先・問い合わせ先・用紙の請求先：
〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16番1号　大阪工業大学　庶務課
電話 06-954-4097（ダイヤルイン）

通商産業省工業技術院研究職選考採用者の公募について

募集分野：化学，物理，電子，機械等広範囲な分野で募集
応募資格：
＜任期なし＞博士課程修了者または見込者（学位取得が可能な者）かつ昭和40年4月2日以降生まれの者
＜任期付＞博士課程修了者または見込者（学位取得が可能な者）及びこれに相当する者
給　　与：
＜任期なし＞博士課程修了後ただちに採用された場合は258,800円の基本額と諸手当
＜任期付＞博士課程修了後ただちに採用された場合は341,000円の基本額と諸手当
提出書類：履歴書，学部・修士・博士それぞれの修了及び成績証明書，修士及び博士論文の要約，研究業績の要約2～3点等
公募〆切：平成10年7月31日（必着）
選考方法：提出書類等をもとに各研究所で予備審査を行い10月上旬に最終審査を実施して候補者を決定
採用予定日：平成11年4月1日
その他：公務員宿舎あり，土日祝日休み，有給・夏季休暇
募集概要請求先：筑波研究支援総合事務所庶務課人事係　Fax 0298-54-2134
（電話での問い合わせ不可）

東京大学大学院理学系研究科地球惑星物理学専攻教官公募のお知らせ

この度東京大学大学院理学系研究科地球惑星物理学専攻では，下記の要領で教官を公募することになりましたのでご案内いたしま

す.

記

公募対象：固体地球物理学大講座助教授1名

専門分野：マントル下部・コアなどに関連した現象を研究し，教育にも意欲のある方．固体地球教官の現在の構成が地震4，その他2となっているので，できれば地震学以外の分野の方が望ましい．

着任時期：1998年10月1日以降できるだけ早い時期．

提出書類：

(1) 履歴書（学歴，職歴）

(2) 業績目録（レフェリーのある論文とそれ以外の総説等に分ける）

(3) 主要論文3編の別刷りまたはコピー

(4) 推薦の場合は推薦状，応募の場合は応募者に関する所見をいただける方2名の氏名と連絡先．

(5) 今後の研究・教育計画や抱負など（2000字程度，推薦・応募とも）

応募・推薦締切：1998年6月12日（金）必着

提出先：

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院理学系研究科
地球惑星物理学専攻
専攻長　山形俊男

注意：封筒に「固体地球助教授応募」（または推薦）と朱書し，簡易書留で郵送のこと．

問い合わせ先：

選考委員会委員長 河野　長
電話 03-3812-2111 内4310
Fax 03-3818-3247
e-mail : mkono@geoph.s.u-tokyo.ac.jp

委員会報告

本会以外の学会および研究会・委員会よりのお知らせを掲載します．

日本学術会議第17期第2回鉱床学専門委員会議事録

1998年2月27日（金）14 : 45–16 : 45（鉱物学研連・鉱床学専門委合同会議後開催）

出席者：島崎英彦（委員長）・千葉　仁・石渡　明・溝田忠人・中嶋　悟・根建心具・上野宏共・渡辺　洵・松枝大治（幹事）（以上9名）

直前の合同会議で以下の報告および審議が行われた．

［報告事項］

1） 青木学術会議会員より，第17期日本学術会議連合部会・第4部会（2月12日開催）の報告がなされた．

2） 河村委員（末野研連委員長代理）より，地質科学総合研連（12月22日）の報告がなされ，それに関して意見の交換が行われた．

［審議事項］

1） 鉱物学研連の学術領域の内容について

2） 平成10年度国際会議への代表派遣の推薦追加について

鉱床学専門委員会審議事項

［報告事項］

1） 1998年シドニー開催予定のIAGODが，都合（主催者側が宗教的トラブルに巻き込まれたため）により1999年ロンドン開催に変更された．（島崎）

2）「資源地質」（雑誌）のスタイルが国際誌に向けて変更（英文誌年4回，和文誌（年2回）になった．（島崎）

3） 鉱物学会・岩鉱学会雑誌統合は，1999年1月より行う予定で準備中である．（中嶋）

［議　事］

1） 島崎委員長より，前回の会議により決定した今期鉱床学専門委員会で作成する対外報告「鉱床学の研究・教育の推進について」の原案提示と主旨説明がなされた．

「対外報告」の構成原案は以下のようである．

A）はじめに

B）鉱床学の位置付けとその重要性

C）鉱床学の研究・教育における問題点と改善への提言

2） 提案された原案について，委員相互で活発な意見交換を行った．以下にそれらの内容をまとめて列挙する．（順不同）

A）日本の鉱床学の研究成果と国際貢献の強調

B）鉱床学の特性と学問的意義

C）物質循環と地球史における鉱床学の寄与

D）地質学・鉱物学・地球化学への鉱床学の貢献

E）環境問題と鉱床学

F）鉱床成因モデルの構築

G）資源リサイクルと低品位鉱の回収技術向上

H）新たな鉱床学（現世における鉱化作用，有機物の作用等）の展開

I）地球資源学としての鉱床学の重要性

J）スペース問題（資・試料の保存・記録，博物館等）

K）ボーリングコアの保存と活用（MMAJ，NEDO，民間等）

L）海外への研究・開発の展開

M）実習鉱山・フィールド問題

N）高校地学教育における鉱床学の位置付け

なお今回の議論を参考にして，次回までに島崎委員長がさらに原案の修正・加筆したものを用意することになった．

3） その他

A）議事録の関係各学会への報告は，各委員の選出母体となっている学会へそれぞれの委員が行うこととした．

B）次回の鉱物学研連・鉱床学専門委は，6月5日（金）に合同開催予定とする．

以上

（文責　幹事　松枝大治）

☆地質学論集　新刊案内

地質学論集第49号，51号が発行されましたので，ご案内いたします．ご希望の方は代金を添えて本会事務局までお申し込みください．2冊分送料は450円です．（現金または郵便振替00140−8−28067）

地質学論集第49号

21世紀を担う地質学　Geology in the 21st Century

(新妻信明・天野一男・田切美智雄編，1998年3月27日発行，232ページ，会員頒価2,500円，送料340円)

目　次

前文……秋山雅彦・小松正幸・坂　幸恭・新妻信明
地域地質再考―実社会と結びついた地質学研究・教育をめざして―……天野一男
日本列島の層序研究の現状と将来……新妻信明
火砕岩鍵層と変動帯の地質および基盤運動……三梨　昂
海洋掘削によるプレートテクトニクスの証明……斎藤常正
付加体地質学の誕生と発展……平　朝彦
地層からの空間-時間復元をめざして堆積地質学の発展と未来……保柳康一
21世紀に向けての構造地質学……伊藤谷生ほか
活断層調査の現状と課題……杉山雄一
21世紀にむけての岩石学の展望―Ⅰ．高圧変成帯を中心として―……鳥海光弘ほか
21世紀にむけての岩石学の展望―Ⅱ．高温変成帯を中心として―……小畑正明ほか
地質学に貢献する放射年代学―日本の現状と展望―……板谷徹丸
加速器質量分析（AMS）による宇宙線生成放射性同位体の測定と若い地質年代測定への応用……中村俊夫
バクテリア活動と地球環境……田崎和江
情報地質の歩みと将来……西脇二一
宏観異常による地震危険予知―情報地質学の歩みと展望にてらして―……弘原海　清
21世紀の日本の地質学……丸山茂徳
顕生代の地球環境変動―気候，生物イベント，物質輸送，そしてスーパープルーム……川幡穂高
脱皮する陸上学術ボーリング計画と21世紀の地質学……新妻信明
21世紀の深海掘削計画……小泉　格

本論集は，1997年4月に開催された104年総会の際の同名のシンポジウムにおいて新設された各専門部会が行った講演，現在のトピックス，現代の地質学において一時代を画した業績をあげられた会員による当時の状況についての論文を収録したものである．

本論集の内容は地質学全般にわたっており，執筆者が各分野を代表する地質学研究者であることから，学部・大学院学生用の地質学の教科書として利用することが可能である．また，新たな地質学教科書の執筆しようとする場合には必読の書となろう．

本論集が扱っている20世紀後半の地質学においては，地球科学の大革命であるプレートテクトニクスの成立が含まれており，将来，地質学史を編纂するための重要な文献となるであろう．プレートテクトニクスの萌芽は，日本の地質学の中で着実に成長し，開花した経過も収録されており，正規の論文には書かれなかった興味深い実話も紹介されている．日本の地質学は，その後更に発展し，付加体の認定，そしてプルームテクトニクスの成立と世界の先端に躍り出る状況も紹介されている．

本論集では，地質学の各分野が21世紀に向けて発展する方向を明示しているので，これまでの研究を地質学発展の流れの中に位置づけることができるとともに，これから研究を始めようとする若い研究者に対しては，地質学研究の方向を探る指針となるであろう．
地質学会の予算状況から，会員の要望に沿う充分な部数を印刷することができなかった．要望によって再版することも考えている．

地質学論集第51号

地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―

(岡田博有・籾倉克幹・大槻憲四郎・竹村恵二・竹村厚司・西　弘嗣編，1998年3月24日発行，162ページ，＋口絵4ページ，会員頒価3,000円，送料340円)

目　次

はじめに……岡田博有・籾倉克幹・大槻憲四郎・竹村恵二・竹村厚司・西　弘嗣
1995年兵庫県南部地震調査の種類と概要……竹村恵二
第1部　地震と地盤災害の対応関係をさぐる
地震学的に見た兵庫県南部地震の特徴……堀川晴央
兵庫県南部地震による地震動と基盤構造―甲陽断層周辺について―……赤松純平・慈道　充・駒澤正夫・西村敬一・斉藤秀雄・中村　佳・尾上謙介・志知龍一
測地測量に基づく1995年兵庫県南部地震の地震像……橋本　学
1995年兵庫県南部地震における建築物の被害判定とその分布調査……石川浩司・溝口昭二・大鹿明文
1995年兵庫県南部地震における木造家屋の倒壊方向……松田高明・竹村厚司
墓石・灯篭の転倒方向からみた1995年兵庫県南部地震の水平地震動の方位と地表変状の方向規制……横山俊治・菊山浩喜
1995年兵庫県南部地震による神戸市街地の地盤変状……宮田隆夫・前田保夫

瓦屋根の破損からみた神戸市長田区〜北区における1995年兵庫県南部地震による被害分布……先山　徹・小林文夫
地震動を規制する大阪盆地の深部地下構造特性……中川康一・井上直人
1995年兵庫県南部地震被害の地形環境解析……高橋　学
第2部　地震防災と地質学
活断層と地震防災……山崎晴雄
活断層等の地質情報と行政について……佐々木良作
地震防災と教育・学校－1995年兵庫県南部地震が学校と教育に突きつけた課題－……菊本　格
防災教育と博物館……小林文夫
おわりに……大槻憲四郎

阪神・淡路大震災と呼ばれる大災害を引き起こした兵庫県南部地震から早くも3年余りが経過した．

地震直後からの多数の研究者による調査報告やマスコミの報道は一段落した感があり，被災地とそれ以外の土地の温度差が大きくひろがっている．このようなときに地質学会論集として，1996年に仙台で開催された標題の地質学会シンポジウムのまとめが出版された意義は大きい．このシンポジウムは震災1年後の開催であったため，その時点では多くの疑問が残されていた．しかし，その後の解析情報も含めてまとめられた本論集には今後の地震災害にわれわれはいかに対処すべきかという多くの教訓が示されている．

本論集は2部構成になっている．

第1部の前半は兵庫県南部地震の地震，強震動，地殻変動のまとめとして，他学会の3分野の研究者から寄稿いただき，この地震の地球物理学的側面からの貴重なまとめがなされた．この3論文は地震と災害を考える際の地質学会の会員への重要な情報となるに違いない．

第1部後半の地表変状に関する論文は，阪神・淡路大震災の地元に生活し，地道に地表変状を観察・記載を続けた地質学者の報告である．あの地震は何だったのかを解きあかしたい地元の研究者の意気込みが感じられる．その中で地表変状調査や家屋倒壊調査における調査法の均質性，緊急性の重要さが指摘され，地質学者がもっとも得意とするはずである地表変状記載の具体的な方法についても紹介されており，今後の災害調査に重要な情報が集められた．

第2部では，地震災害の社会との関連を行政，教育，社会教育の面から現地での体験にもとづいてするどい指摘がなされ，地質学者への期待と要望が強く述べられている．その期待に応えるための対応が望まれるが，社会的要求に応えることができる地質学のあり方が今，まさに問われている．21世紀の地質学が存在するとすれば，この第2部でのべられた期待と要望にいかに地質学会が応えていけるかにかかっている．

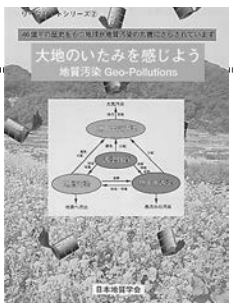
以上のように，本論集はわれわれが地震と災害に関して考えるときの重要な指針になるに違いない．さらに，他分野と地質学との接点として重要な土木，地盤，土質などの分野への地質学の貢献を紹介できる内容を含んでいることも強調したい．

地質学論集の割引について

地質学論集の割引については以下のとおりです，大いにご利用下さい．

No. 39以前の論集：院生・学生は4割引，正会員は2割引
No. 40〜No. 48論集：院生・学生のみ2割引

今回の割引は，とくに経済的な困難をかかえながらも，日夜研究をつづけている院生・学生諸氏への優遇を重点におきました．なお，院生・学正会員諸氏への優遇措置は，各号につき一人一冊と限らせていただきます．申込みの際，「院生」あるいは「学生」会員であることを明記下さい．



☆リーフレットシリーズ第2作

「大地のいたみを感じよう－地質汚染 Geo–Pollutions」

好評発売中！

一昨年発行したシリーズ第1作「大地の動きを知ろう－地震・活断層・地震災害－」は，A2判裏表にカラー印刷というスタイルが，ハンディーで，さらにポスターにもなることで好評でした．このたびの第2作は環境地質研究委員会編集の地質汚染のリーフレットで，3月7日完成しました．前リーフレット同様，会員の方には一部無料配布いたしますので，以下の要領でお申し込み下さい．

配布方法：会員本人には一部無料配布．それ以上の部数をご希望の場合，および非会員の方には，一部300円とさせていただきます．

申込み方法：学会事務局あて，必要部数を記入し，返信封筒（宛名を書き，郵送料分の切手貼付のこと）を入れてお申し込み下さい．なお，サイズが横15cm×縦21cm，重さが1部25gですので，一部郵送につきましては，以下のようにお願いいたします．

・定形封筒の場合：90円切手貼付．ただし，二つ折にしての郵送となります．
・定形外（15×21cm以上）封筒の場合：130円切手を貼付．
　一部以上の場合，部数×200円の代金と下記の郵送料を合わせて，切手でお送り下さい．（例，郵送料3部まで160円，8部まで270円，17部まで390円，20部まで580円）．20部以上の送付希望の方は，事務局までお問い合わせ下さい．

「地質学関連の国立研究機関の組織・調査研究活動の強化に関する要望書」と「岡山県阿哲郡大佐町の2つの露頭の保全に関する要望書」提出について

去る3月27日に開催された1997年度第4回定例評議員会と3月28日の第105年総会において，日本地質学会から本年3月に標記の2つの要望書をそれぞれの関係機関に提出したことが報告されました．それらの全文をここにご紹介します．なお，「地質学関連の国立研究機関の組織・調査研究活動の強化に関する要望」は，総務庁長官宛と同文の要望書を科学技術庁長官，通商産業大臣，工業技術院長ほかの関係諸機関長宛に提出しました．

総務庁長官（国務大臣）
小里　貞利　殿

地質学関連の国立研究機関の組織・調査研究活動の強化に関する要望

平成10年3月20日

日本地質学会
会長　秋山　雅彦

本学会は，ただいま審議を進めておられる行政改革について，地質情報の国家的規模での組織的な取得，それらの国民への公開の必要性・重要性に鑑み，地質学関連の国立研究機関の組織強化，調査研究活動の強化に関する下記の要望を提出いたします．行政改革を進められるに当たって関連学会からの意見としてご考慮いただければ幸甚です．

要　望

通産省工業技術院に属する地質調査所は，我が国における地質学関連の中核的な，国を代表する国立研究機関であることは申すまでもないところです．これまで多年にわたる組織的な調査研究を通じて，国内的には勿論，国際的にも，さまざまな地質情報の取得とその関連各界への公共的な情報提供に関し，非常に重要な地位を占めてまいりました．近年，地震災害や環境問題に関連して，地質情報に対する社会的ニーズは著しく高まっております．それに応えるためには個別的な課題に関する詳細な調査研究と並んで，重要な基本的地質情報として広く利用される地質図の作成と普及は，国土の広域的な地質学的実態の把握という面で，今後ともさらに充実させる必要があります．さらに，鉱物資源の開発，国土の利用，地震災害をはじめとする諸自然災害に関する地質学的な立場からの組織的・総合的な調査研究を通じて多面的なニーズへの国家的対応，社会への貢献は，今後の我が国の発展にとってますます欠かすことができないものであります．

このような見地から，今般の行政改革に当たっては，現存の地質調査所をさらに充実させ，所轄省庁を横断した関連各界からのニーズに対応し得る，地質学関連の中核的な調査研究機関として，組織の強化，調査研究活動の強化がなされることを切に要望致します．また，中核的研究機関として，地方自治体・大学，企業の研究所等との連携のさらなる強化を計るとともに，貴重な試資料を含む諸地質情報の保存・公共的利用を可能ならしめる等の実現を計っていただくことを，また次代の必要な人材の教育・養成に携わる機関としても十分に活動できるよう配慮していただくことを学会の立場から要望いたします．日本地質学会としましても地質学および関連科学の発展の見地から，必要に応じて同所を中心とした関連諸機関の活動に対して，専門的立場から全面的な協力を惜しまない用意があることを申し添えます．

背景説明

日本地質学会は，1883年に創設され，現在，5,300余名の会員からなる地質学とその関連科学に関する我が国最大規模の学会であります．大学・国公立研究機関の研究者，教員，会社関係の地質技術者等の会員の緊密な連携のもとに，地球の発展史という観点での，地球の理解を目指す基礎的な課題とともに，国際的な地下資源の枯渇，地震・地すべりなどの地質災害，地球温暖化等の自然環境変化に伴う自然災害など，地質学に直接関連する諸課題を学術的に解決し，さまざまな形で国民各層にその成果を普及し，社会の発展に役立てることを目的として，学会活動を進めてきております．

これらは，何れも人類の存続にかかわる重要な問題であり，学会や民間企業のみでは十分に対応することが困難であります．国土のさまざまな地質情報を組織的に取得するとともに，それらを国民に公開し，利用可能にするためには，全国的規模での国家施策の推進が必要であります．とりわけそれらの中でも中心的位置を占めるものは全国土にわたる「地質図」の作成です．

様々な縮尺の地質図は，地質調査研究の成果に基づいた地域の地質情報を総合的に表したもので，世界各国とも，地形図とともに重要な国土の地球科学情報の一つとして，その作成と普及には大きな国家的努力を注いできました．とくに5万分の1程度あるいはそれ以下の縮尺の地質図は，目に見えない地下の地質状況を地域全体の視野に立って的確に理解する上で，学術的分野は勿論のこと，環境問題，地震・火山・地すべり災害，諸工事の設計をはじめとする地質学関連の諸問題の解決のための重要な基礎資料を提供するものとして必要不可欠のものであります．

我が国においては，明治初期に当時の農商務省のもとに地質調査所が設置され，以来，同所は各種の地質の調査を実施し，地質図として成果をまとめて刊行し，鉱物資源開発をはじめとして，汎用性の高い，広域的な基礎的地質情報を広く一般に提供すると

ともに，地質に関連するさまざまな調査を実施し，地質学の基礎を築くとともにその発展に多大の貢献をしてきました．第二次大戦後は，地質調査所は通産省工業技術院に所属し，その基本的業務が継続されてきました．その成果は学術的立場からは勿論のこと，関連各界によって貴重な基礎的資料として大いに活用されております．そして今後，急速な学術的発展を基礎とした「地質図」作成がさらに急速に，広域的に進展することが強く要望されております．

地質調査所はまた，これまでも継続的に行ってきた国土開発，地下資源開発利用，自然災害防止，地震予知・防災の基礎資料提供のための活断層の調査研究など，国際協力によるグローバルな諸調査研究をはじめとする基礎的調査研究と，これらに関連した諸技術開発研究をより一層，発展・充実させることが必要です．

国内においては，諸事業体によって毎年実施されているさまざまな地質関連の調査に伴って試料・資料等の多数の地質情報が集積されますが，これらを一元的に収集・保存し，公共的利用に供するための体制はこれまで我が国には全くなく，貴重な地質学的な国土情報を活用することができず，大きな国家的損失となっております．今後，社会における効率的利用を計る上に，これら地質情報の一元的管理と公共利用のシステムの確立は急務と考えられます．現在の体制のもとでは，最大の総合的調査研究機関としての地質調査所のような組織がそれにあたることがもっとも適当かと思われます．

地質学や地球科学に関する調査研究を扱っている機関は，地質調査所以外に，科学技術庁，建設省，文部省，運輸省等に所属している，いくつかのものがあります．今後も，調査研究をさらに効果的に推進させるために，地質調査所とこれら諸機関の間の，また大学，地方自治体，企業の研究所等との緊密な連携を一層効果的に進めて，国として地球科学に関する国土情報の系統的・計画的取得とそれらの公共的利用に関して高度の成果を挙げ得る施策が計られることが必要と考えられます．関連して，次代にさまざまな面に活躍する，必要な人材の教育・育成も大変必要な側面であります．この点においても地質調査所のような中心的な総合的調査研究機関は非常に効果的な役割を果たす性格を有しております．

上記のように我が国の地質学と，関連する社会的諸分野の将来の発展を計るという立場からさまざまに見た場合，地質調査所は極めて重要な位置を占めております．同所の組織の強化と調査研究等の強化，成果の公共的な場，すなわち国民の各界に対する一層の提供は是非必要不可欠と考えられますので，よろしくご配慮下さるよう要望申し上げます．

平成10年3月11日

岡山県大佐町
町長　梅田　和男　殿

日本地質学会
会長　秋山　雅彦

岡山県大佐町内の大佐山2露頭の保全要望について

謹　啓
時下ますますご清祥の段，お慶び申し上げます．

さて，御地，岡山県阿哲郡大佐町内の大佐山周辺には蛇紋岩が分布し，それにともなってひすい輝石岩が産出することは，昭和62年に当時岡山理科大学の小林祥一氏らによって報告（Kobayashi, Miyake and Shoji, 1987 : Mineralogical Journal，13巻，314–327頁）されて以来，広く知られていました．また，最近になって，同じく大佐山の蛇紋岩中よりコスモクロアを含む岩石が，本学会会員である島根大学の阪本志津枝と高須　晃によって発見されました（Sakamoto and Takasu, 1966 : 地質学雑誌，102巻，49–52頁）．コスモクロアはナトリウムとクロムからなる単斜輝石で，大佐町からのものは日本で初めての発見です．また，これは世界でもミャンマー，ロシア，イタリアに次ぐ世界で4番目に発見されたコスモクロアです．

ひすい輝石は宝石として有名ですが，地質学的には低温高圧の変成作用を示す指標鉱物として重要です．大佐山のひすい輝石は，新潟県青海地域から兵庫県大屋，鳥取県若桜を経て大佐山へ連続する三郡-蓮華帯とよばれる主に変成岩からなる地帯から産出するものです．この三郡−蓮華帯には蛇紋岩が多く分布し，いずれの地域でも蛇紋岩中のブロックとしてひすい輝石が産出します．大佐山では，径約1mのひすい輝石からなるブロックが蛇紋岩に直接包有されている様子を観察することができ，このような産状はひすい輝石の成因を明らかにする上で地質学的・岩石学的にきわめて貴重なものといえます．

一方，大佐山のコスモクロアは，ミャンマーなどから報告されたものに比べると，カルシウムやマグネシウム・鉄を多く含み，これまでに世界のどこからも報告されていない独特の化学組成を示しています．したがって，地質学的意義はもちろんのこと，鉱物学的にもきわめて貴重です．

このように，大佐山のひすい輝石とコスモクロアは学術的にきわめて貴重な存在であり，すでに内外の研究者から注目されるところとなっております．そして，ひすい輝石とコスモクロアの2つの露頭は貴大佐町が誇るかけがえのない文化財の一つというべきものと考えます．つきましては，大佐町におかれましては，上記の2つの露頭を可能な限り自然の状態で保全し，これらを後世に伝えることができるような計画を進められることを願い，ここに当該2露頭の保全を要望申し上げます．

なお，当該露頭およびその周囲の地質の学術的研究，露頭の保全，そしてそれらの啓蒙と普及について，本学会は専門的立場から可能な限りの協力を惜しまないものであることを申し添えます．

敬　具

委 員 会 だ よ り

☆女性地球科学者の未来を考える研究委員会

八甲田集会のおしらせ

本研究委員会は，女性地球科学者をとりまく研究環境の改善，相互交流を目的として，96年10月に金沢で“座談会「女性地球科学者の研究交流会―地球と環境を語りましょう―」”を開催し，好評を博しました（地質学雑誌，第102巻，1007ページ）．昨年10月の地質学会年会（福岡，九州大学）の夜間小集会では，“次回の研究交流集会は，東北方面で野外巡検をセットして開催しよう”という計画が提案，承認されました．これを受けて，来たる6月に第2回集会を八甲田山周辺で開催致します．女性地球科学者の方々（教員，学生，会社員など），女性地球科学者を抱える上司の方々，また興味のある男性地球科学者の方々の参加をお待ちしています．

日　時：98年6月13日（土）–14日（日）
予　定：6月13日（土）午後集合，巡検および研究交流会
　　6月14日（日）巡検，午後解散
巡　検：八甲田周辺のバイオマットを見る
宿　泊：東北大学八甲田植物実験所（青森市八甲田山麓の酸ヶ湯の近く．
交　通：JR青森駅からバス，または青森空港から送迎．車での参加者には地図を送ります）
費　用：宿泊費＋コンパ代で5,000円くらい（学生割引有り）
案内者：田崎和江　他
参加希望者は5月末日までに下記へ連絡下さい．
〒990–8560 山形市小白川町1–4–12 山形大学教育学部　大友幸子
電話 023–628–4424, Fax 023–633–9038
e–mail : yukiko@kescriv.kj.yamagata-u.ac.jp
（派遣依頼が必要な方はお早めにご連絡下さい）

今回の集会についての問い合わせは下記でも受け付けます．
田崎和江（kazuet@kenroku.kanazawa-u.ac.jp）（電話 076–264–5736）
宮下由香里（yukari@gsj.go.jp）（電話 0298–54–3657）

専門部会コーナー

構造地質

構造地質研究会第1回日韓合同大会のお知らせ

4月号ニュース誌で予告しましたように，下記夏の合同大会をソウル大学で行います．シンポジウムタイトルはTectonic Evolution of East Asiaですが，広く日本列島のテクトニクス（ナップテクトニクス，横ずれテクトニクス，付加帯のテクトニクス等）や構造発達史に関連する発表も歓迎します．巡検は大白山地域にて沃川帯北東部の地質構造を見学します．

Title : TECTONIC EVOLUTION OF EAST ASIA
―The 1st joint meeting of Japanese and Korean Structural/Tectonic Research Group―
Date : 1998. 8. 24–25 : Meeting at Seoul National University (SNU)
　　26–28 : Field excursion
Accomodation : Hotel or Korean Inn around the SNU will be available.
Fee of registration including abstracts :
US$100 for professionals, US$50 for students
Deadline of abstracts: June15.
Length of abstract: A4, 4 or 6 pages length including figures and tables
Schedule (tentative)
1998.8.24 (Mon) Arrival Japanese geologists in Korea.
　　Registration in the SNU.
8.25 (Tue) : Seminar and symposium at SNU.
8.26 (Wed)–27(Thu) : Field excursion at Taebek area.
8.28 (Fri) : Return to Japan

この大会に申し込みを希望される方は，下記申し込み用紙をFaxまたは郵送してください．電子メールでも受け付けます．
申し込み先は，
高木秀雄（Hideo Takagi）
早稲田大学教育学部地学教室
〒169–8050 東京都新宿区西早稲田1–6–1
電話 03–5286–1510　Fax : 03–3207–4950
e-mail : hideo@mn.waseda.ac.jp
申し込み締切りは5月30日（土）です．
申し込み用紙

1998/8/24–28　構造地質研究会夏の韓国例会に参加します
（締切：5月30日）
氏　名：
連絡先：
電子メールアドレス：
希望する方の（　）内に○を記入して下さい
シンポジウム「東アジアの構造発達史」に発表する（　）/しない（　）
個人講演で発表する（　）/しない（　）
発表する場合の希望：口頭（　）/ポスター（　）
巡検に　参加（　）/不参加（　）

なお，一般個人講演を口頭・ポスター両方可能にするか，ポスターのみにするかは，参加人数をみてから決めたいと思います．口頭希望がポスターに変わる可能性もあることをご了承ください．シンポジウムは口頭です．

アブストラクト締切りは6月15日です（高木まで）．アブストラクトのフォーマットを下記のように統一します．

1. A4用紙，上下左右に3cmの余白をとる．
2. フォントはTIMESを使用，1ページ45行．
3. 文字サイズは10p．タイトルのみゴチックで12p．REFERENCESは9p.
4. タイトル，著者名，章見出し，所属はセンタリング
5. 上からタイトル，1行空け，著者（全部大文字，名→姓の順），1行空け，所属（イタリック，複数著者の場合は上付き小番号で示す），一行空け，章見出し（全部大文字），一行明け，本文．
6. 長さは図・表含めて4ページないし6ページ．本文中に図表も予めレイアウトしてください．

院生コーナー　開設のお知らせ

若☆手☆研☆究☆者☆のネットワーク作りを

院生会員は地質学会の構成員の約一割を占めているにも関わらず，発言する場は公には与えられておりませんでした．今年の一月から地質学会ニュース誌が誕生し，学会員全員に配布されることとなりました．これは若手研究者のネットワーク作りに関して，絶好の機会であると強く認識しております．

そこで，この度［院生コーナー］をニュース誌上で立ちあげることとなりました．なるべく，院生の身近な話題・身近な問題点についておおいに活発な議論がこのコーナーでできれば幸いです．多少アカデミックでない内容でも構いませんので，皆さんの積極的な投稿をお待ちしております．勿論，皆さんの投稿のみがこのコーナーの存続を決定します．現時点での編集方針としては，研究室紹介（単に自己紹介でも可）・海外学会への参加報告（あの大先生はこんな人だった）・フィールド紹介（私だけが知っている露頭コーナー）・若手地質の会の呼びかけ・地質交流サッカー大会の企画といったものを投稿していただきたく思います．なるべく，肩肘はらない口語調のお気楽な投稿も歓迎していきますので，読んでいて楽しくなるような内容でお願いします．何か他にも素晴らしい企画をお持ちでしたら，ご一報下さい．

差し当たって院生コーナーの編集は以下の3人で行います．投稿は以下のメールアドレス宛てe-mailで頂ければ幸いです．

yoshino@geol.s.u-tokyo.ac.jp
芳野　極（東大）
696g5059@mn.waseda.ac.jp
澤口　隆（早大）
massago@geo.titech.ac.jp
真砂英樹（東工大）

同時に院生メーリングリストへの加入も募集しております．このメーリングリストは，前院生評議員の新潟大の濱本君が立ち上げたもので，以下に加入法を説明しますので，是非参加して意見を送って下さい．このメーリングリストとニュース誌での院生コーナーで平行して議論をし，若手研究者の横のつながりを確立できればうれしく思います．

メーリングリストへの参加方法
smlys@higo.gs.niigata-u.ac.jpあてに，subjectは空欄で

SUBSCRIBE mlys Your Name
（例：SUBSCRIBE mlys Takuji Hamamoto）
のメールを送ってください．登録が完了されるとメッセージが返送されます．

メーリングリストへのメッセージ送るときは　mlys@higo.gs.niigata-u.ac.jp
あてにメッセージを発信してください（登録の時とはアドレスが違います）．まれに，うまく登録されない場合があります．その際は手動で登録しますので，takuji@gs.niigata-u.ac.jpまで連絡下さい．参加者の照会等のコマンドが使えます．詳しくは登録後のメールにてお知らせします．不明な点は新潟大・濱本（takuji@gs.niigata-u.ac.jp）までお訪ね下さい．

（文責　芳野　極）

関連学協会コーナー　日本古生物学会行事予定

◎第147回例会は1998年6月27日（土）～6月28日（日）に，北海道大学で開催されます．一般講演の申し込み締切は5月11日です．シンポジウムとして6月27日に「復元の科学（その2）：海洋古環境復元における古生物学とその境界領域，世話人：岡田尚武，小泉　格，大野照文）」が行われます．

◎1999年年会は1999年1月29日（金）～1月31日（日）に，東北大学で開催されます．一般講演の申し込み締切は12月3日です．シンポジウム等の企画をお持ちの方は5月28日までに行事係までお申し込み下さい．

◎1999年年会以降の行事予定としては，第148回例会に「兵庫県立人と自然の博物館」から，また2000年年会・総会に「早稲田大学」から開催の申し込みがありました．

◎現在，常務委員会は2001年からの学会行事の変更を検討しております．2001年からは，従来とは異なった時期や開催形式で年会，例会，総会が開催される可能性があります．したがいまして，第149回例会（2000年6月末に開催予定）までは，従来とおり開催の申し込みを受け付けますが，2001年以降の開催申し込みは，しばらくの間見合わさせていただきます．

年会，例会の講演の申し込み先：
〒240　横浜市保土ケ谷区常盤台79-2
横浜国立大学教育人間科学部自然環境講座　間嶋隆一（行事係）
問い合わせ先　間嶋隆一：
電話　045-339-334　直通　Fax　045-339-3264　学部事務室
E-mail : majima@ed.ynu.ac.jp HDA01631@niftyserve.or.jp
樽　創（行事係幹事）：
〒250　小田原市入生田499　神奈川県立生命の星・地球博物館
電話　0465-21-1515　Fax　0465-23-8846　E-mail : taru@pat-net.or.jp

ショートコース・ワークショップ開催のお知らせ

日本古生物学会ショートコース
「化石と分子」

近年古生物学において，生物の持つ分子レベルの情報が重要性を増しており，DNAの塩基配列の比較による系統推定なども常套的に行われるようになってきました．一方，そのようなアプローチに興味を持ちながら，その内容に具体的に触れる機会のない学生や研究者も少なくないと想像されます．そこで，古生物学を専攻する全国の大学院生を主な対象とし，下記の日程と内容のショートコースを行います．

日　程：1998年8月17日(月)～8月22日(金)
内　容：「化石分子」，「分子系統学と化石記録1，2」，「発生と進化」，「臨海実習」のテーマの基に各分野の専門の講師の授業と実際の機器を使った実験を行う．
場　所：東京大学地質学教室・東京大学三崎臨海実験所
人　数：10人前後
申込み・問い合わせ先：
〒113-0033　文京区本郷7-3-1　東京大学理学部地質学教室　遠藤一佳
電話　03-3812-2111 Fax 03-3815-9490　E-mail : endo@geol.s.u-tokyo.ac.jp
申込締切：7月末日

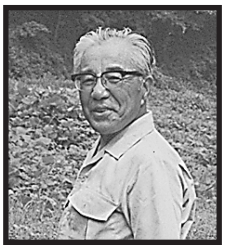
日本古生物学会野外ワークショップ「今，フィールド古生物学が面白い！」

フィールドでの観察を主体とし，過去の生物現象を解析するフィールド古生物学は，堆積学，海水準変動，海洋底の生物などに関する知識の増大を背景に新たな展開を見せています．そこで，フィールド古生物の研究者が中心となって学会内に組織を作り，若手研究者および学生のための勉強会や野外研究集会を開くことになり，以下の企画委員会を組織しました．

企画委員会メンバー：安藤寿男，金沢謙一，北村晃寿，小竹信宏，近藤康生，鈴木明彦，棚部一成，中森　亨，奈良正和（1998年委員長），延原尊美，前田晴良，間嶋隆一．

1998年以下の日程でワークショップを開催致します．
日　程：1998年11月21日（土）～11月23日（月：祝日）
内　容：「海底表層環境と底生生物のダイナミクス」のテーマの基に，化石記録と地層の観察から，外的環境変化に対する底生生物の反応や，外的環境と底生生物の相互作用がどこまで読みとれるのかを室内・野外で解説するとともに議論する．
集合・宿泊場所：
千葉大学理学部海洋生態系センター
小湊実験場（21日は午後2時集合）．
人　数：25人前後（基本的には会員を対象とし，院生・学部生を優先します）
申込み・問い合わせ先：
〒263-0022　千葉市稲毛区弥生町1-3　千葉大学理学部地球科学教室
小竹信宏
電話　043-290-2831　Fax　043-290-2859
E-mail : nkotake@earth.s.chiba-u.ac.jp
申込締切：10月9日

（日本古生物学会行事係　間嶋隆一）



秦　光男さんのご逝去を悼む

本会会員秦　光男さんは，平成10年3月30日午前10時40分肺癌のため68歳の生涯を閉じられました．謹んで哀悼の意を表します．

秦さんは昨年9月頃から体の不調を訴えられ，治療に専念されてこられましたが，肺炎を併発し不帰の客となられました．これから余生をというときになくなられたことは，友人の一人として誠に淋しく残念でなりません．

秦さんは昭和5年1月，夕張炭田開発発祥の地である北海道三笠市（幌内炭坑を始め数多くの炭鉱が在った）に生まれ，第二次世界大戦終結間もない昭和22年3月札幌工業学校採鉱科を卒業されました．

直ちに北海道工業試験場地下資源調査部に就職，翌年5月同部の商工省移管に伴い，当時の同省地下資源調査所札幌出張所（後の通商産業省工業技術院地質調査所北海道支所）へ移り，以来平成2年3月地質調査所を退職されるまで，北海道支所，本所地質部において，主に地域地質の解明のため調査研究に携わってこられました．

札幌出張所へ移られた頃は，戦後の復興に地下資源の開発が急務とされ，わけても石炭，石油などエネルギー資源の開発が国の重要施策としてとりあげられていました．秦さんも入所早々から留萌炭田や天北油田の調査に従事され，積極的な研究意欲と持ち前の粘り強さで，地質学を野外での体験から学び，基礎的な地質調査技術を習得して，上司・先輩からその実力が認められるところとなりました．この経験が後に北海道から本州に及ぶ新第三系の層序・構造に関する研究を主要課題として，地域地質の解明に取り組む端緒になったものと思われます．

秦さんの調査技術は，地質調査所でも高い評価を受けていました．それは綿密な露頭観察と詳細なスケッチを基本に，納得のいくまで山を歩き地質を明らかにすることでした．北海道での調査は，沢歩きが殆どで，沢水が無くなるまで登りつめるという妥協を許さない厳しさがありました．一日の調査が終わり帰宿すると，ルートマップを整理して翌日の計画を立て，野帳に覚え書きをメモするなど几帳面で，地質調査の基本を忠実に実行されていました．

秦さんの昭和40年代までの仕事は，主に北海道中軸帯西側の新第三系と，渡島半島南部のグリーンタフを対象とした調査研究でした．

北海道中軸帯の西側は，炭田・油田地帯として知られ，北海道を代表する新第三系の分布地域の一つでもあり，樺戸山地北部を手始めに，夕張炭田西部，苫前炭田北部の図幅調査（現在の「5万分の1地域地質研究」）の主力メンバーの一人としてその力量を遺憾なく発揮されました．この一連の調査で確立された新第三系の層序・構造・対比は，後の北海道の地質学の発展に寄与したことは云うまでもありません．なかでも模式的なタービダイトとされる川端層・古丹別層の調査では，両層がいずれも級化成層の規則的な繰り返しからなることと，級化成層には，幾つかのパターンがあり，それらが海底地辷りあるいは懸濁流によって形成された可能性を示唆されました．ことに苫前炭田北部の初浦図幅では，鍵層と併せて級化成層の繰り返しを見事に追跡し，古丹別層堆積盆の形成過程を考察する一助となりました．

この調査はKuenen and Migliorini（1950）によって「級化成層の原因としての懸濁流」についての論文が発表されて間もなくのことであり，特筆される業績の一つといえます．

また，渡島半島南部では，松前半島のほか奥尻島と対岸地域の図幅調査を手がけられ，同地域の標準的な地質層序と地質構造の特徴を明らかにし，本州津軽半島との関係をより確かなものとしました．ことに松前半島では，青函トンネル北海道側出口付近の調査を担当し，陸上部における詳細な地質情報を提供して，海底トンネルの完成に側面的に貢献されました．この渡島半島南部における調査研究の集大成“北海道渡島半島南部の新第三系の層位学的研究”に対し，昭和48年に東北大学より理学博士の学位が授与されました．

昭和50年代に入ってからは広域地質図の編纂にも力をそそがれ，地域地質研究の総括として北海道地域において数多くの20万分の1地質図を精力的にまとめられると共に，100万分の1日本地質図編集委員の一人として日本列島の新第三系のとりまとめに尽力されました．

また，若手研究者のフィールドにも積極的に同行し，露頭をまえに永年にわたって培われた野外調査の手法を披露し，後進の指導にもあたってこられました．

さらに地質調査所監修の日本地質図大系（朝倉書店発行）の仕事にも参画され，“北海道地方”の編集責任者の一人として労をいとわず，献身的に作業にあたられ立派に完成されました．

地質調査所を退職された後は，請われて株式会社トーコー地質コンサルタントに入社され，地質調査所で会得された豊富な知識を駆使し，地質調査はもとより温泉開発など多岐にわたって社業に貢献されてきました．

秦さんは仕事も人一倍しましたが，麻雀もよく楽しまれました．腕前は名人の域で，ことにお酒を召し上がってのゲームは格別で，私も被害者の一人でした．

秦さんの地質屋としての生涯は，一貫して野外調査を基本とする地質研究者であったと言ってもよいでしょう．野外での調査技術を学ぶ機会の少なくなったいま，卓抜した野外地質研究者を失ったことは，斯界にとっても，誠におしまれてなりません．私ごとになりますが，札幌工業，地質調査所と，50有余年の長きにわたる厚いご友誼に感謝し，心からご冥福をお祈り申し上げます．

なお，ご遺族は奥様の英子様と2人のご子息がおられますが，ご子息は立派に成人されいずれも独立されています．

奥様のご住所は，

千葉県柏市新柏2–13–13　電話　0471–63–4780

（山口昇一）

訃　報

本会正会員の次の方々が，逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

和田　信氏（1998年1月25日）
渡辺文平氏（　〃　2月15日）
秦　光男氏（　〃　3月30日）
小野晃司氏（　〃　4月22日）

CALENDAR

1998, 6〜

地球科学分野に関係する研究会，学会，国際会議などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内いたします．会員の皆さまの情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会主催行事．
○印は，新しいお知らせです．
　　は締切間近かのご案内です．

6 June

● 1〜3 First International Conference on Geospatial Information in Agriculture and Forestry Technology, Applications, and Decision Support. Disney's Coronado Springs Report, Lake Buena Vista, Florida, USA. Organaized by ERIM with sponsors that include U.S. Department of Agriculture Magazine. Contact ; ERIM Agriculture Conferences, Box 134001, Ann Arbor, MI 48113-4001 USA. Tel. ; 313-9941-200, ext. 3234. Fax : 313-994-5123. Internet ; wllman@erim.org

● 4 無機マテリアル学会第96回学術講演会 札幌プリンスホテル 無機マテリアル学会 電話03-3363-6445

☆ 5 関東支部巡検"大磯丘陵の火山灰をみる"

☆ 13〜14 女性地球科学者の未来を考える研究委員会 八甲田集会 研究交流会と巡検（八甲田周辺のバイオマットを見る，案内者：田崎和江） 宿泊：東北大学八甲田植物実験所 詳細については 山形大学教育学部 大友幸子（電話：023-628-4424, Fax：023-633-9038
e-mail：yukiko@kescriv.kj.yamagata-u.ac.jp）まで.

● 14 第7回地学教育セミナー「気候変動―過去・現在・未来―」 日本地学教育学会・日本地質学会・地学団体研究会 学習院百周年記念会館（山手線目白駅） 問い合わせ先：鵜浦武久 電話 03-3330-0101

● 17〜19 資源地質学会（SRG）第48回年会 17日：SRG/SEG Joint Symposium「Granitoid Types and Mineralization」18〜19日：学術講演会 港区新橋5-11-3 新橋住友ビル

● 25〜26 日本情報地質学会総会・講演会 Geoinforum-'98 国際学術交流センター岡山県倉敷市

○ 27〜28 日本古生物学会第147回例会 北海道大学 27日シンポジウム「復元の科学（その2）：海洋古環境復元における古生物学とその境界領域」（詳細は本誌参照）

7 July

● 14〜16 第33回地盤工学研究発表会 山口大学 （社）地盤工学会 電話03-3251-7661

● 21〜24 1998西太平洋地球物理会議（WPGM）台湾・台北

● 24〜27 第11回国際女性技術者・科学者会議 日本学術会議・日本女性科学者の会・日本女性技術者フォーラム共催 千葉市幕張メッセ 国際会議場 問い合わせ先:都河明子（第11回国際女性技術者・科学者会議事務局）電話/Fax 03-3812-2413

8 August

●6th International Conference on Paleoceanography, Lisbon, Portugal. 連絡先：Olga Vaia, Viagens Abreu S.A. (Congress Department), Avenida 25 de Abril, 2-Edicio Abreu, 2795 Linda-a-Velha-Portugal, e-mail : ovaia@abreu.pt (Abstract limit : February 20, 1988 ; Registration and Housing Reservation limit : June 15, 1998) これは3年に1回開催される古海洋学国際会議で，招待講演以外はポスター・セッション（これまでも500件以上の発表があった）.

● 12〜25 第5回ジュラ系に関する国際シンポジウムのご案内 -5th International Symposium on the Jurassic System-カナダバンクーバー 12-16 : Pre-Symposium fieldtrip 17-20 : Scientific sessions 21-25 : Post-Symposium fieldtrip 連絡先 : Dr. Paul Smith 5th International Symposium on the Jurassic System Department of Earth and Ocean Sciences University of British Columbia 6339 Stores Road, VANCOUVER, B.C. Canada V6T 1Z4 Telephone : ＋1-604-822-6456 Fax : ＋1-604-822-6088 E-mail : psmith@eos.ubc.ca ホームページ : http://www.eos.ubc.ca/jurassic/announce.htm

● 20〜26 The Ninth International Conference on Geochronology, Cosmochrono-logy and Isotope Geology 場所 : Beijing, China 主催 : Chinese Academy of Geological Sciences Abstract deadline : February 28, 1998 Contact : ICOG-9 Secretariat, Chinese Academy of Geological Sciences, Baiwanzhuang Road 26, Beijing 100037. China. (phone ; ＋86-10-68311545, -68326456, fax ; ＋ 86-10-68311545)

● 21〜24 第16回化石研究会総会 足寄動物化石博物館 連絡先：足寄動物化石博物館 電話 01562-5-9100（詳細は3号参照）

● 25〜28 International Conference on Metallogeny and Geodynamics of the North Asian Craton and Framing Orogenic Belts Irkutsk, Russia
Registration Fee : 150 US$
Field Excursion to Zun-Kholba Lode Gold Deposit and Southern Lake Baikal, August 20-24, 1998 (US$ 300)
Conference Organizers : staff of Institute of Geochemistry, Siberian Branch RAS, Irkutsk
Deadline for submitting abstract and registration form March 1, 1998
Please contact : Mrs. Tatiana Bounaeva, Institute of Geochemistry, Russian Academy of Sciences, P.B. 4019, Irkutsk 664033 Russia, Fax : 3952-46-40-50, Phone : 3952-46-59-64 E-mail : tabun@igc.irkutsk.su

9 September

● 21〜25 8th Congress of the International Association of Engineering Geology and the Environment Vancouver, British Columbia, Canada Contact : 8th Congress IAEG c/o Venue West Conference SErvices Ltd. #645-375 Water Street Vancouver, BC, Canada V6B5C6 tel : 01-604-681-5226 Fax : 01-604-681-2503

☆ 25〜27 日本地質学会第105年々会（松本大会） 信州大学

10 October

☆ 26〜28 国際シンポジウム「環境保全と鉱物資源の活用―残土石等の処理への石灰・ゼオライト・粘土類の利用」 日本地質学会環境地質研究委員会（詳細は次号）

11 November

○ 5〜7 国際シンポジウム『琉球列島（南西諸島）―島嶼型動物相の適応放散と絶滅の舞台―』 主催：鹿児島大学 鹿児島大学稲盛会館（詳細は本誌参照）

☆ 28〜29 第8回環境地質学シンポジウム 日本地質学会環境地質研究委員会 大阪市立大学（詳細は次号）

10 October 1999

○ 3〜6 October 第7回太平洋地域新第三系国際会議 The 7th International Congress on Pacific Neogene Stratigraphy 場所：国立メキシコ大学 主催：RCPNS（太平洋地域新第三系層序委員会） 連絡先：Prof. A. Molina-Cruz, Organizing Committee of VII-RCPNS, Inst. Cien. Mar. Lim., UNAM, Ap. Post. 70-305, Ciudad Universitaria, Mexico D.F. 04510 Fax:52-5-6160748 国内連絡先：〒422-8035 静岡市宮竹1-9-24 土研究事務所 土 隆一 電話 054-238-3240 Fax 054-238-3241 e-mail : vyz01052@nifty-serve.or.jp 会議前後にExcursionを計画，First Circularは10月に発送される予定.

5 May 2000

● 28〜10 June 西暦2000年世界地熱会議 主催：国際地熱協会（IGA）WGC2000国内組織委員会（JOC） 開催場所：前半別府，後半盛岡および鹿角 テーマ：Sustaining Geothermal Energy into the 21st Century

The Island Arcだより

The Island Arc編集事務局では，雑誌編集作業に加えてバックナンバー等の雑誌購入に関する御相談や取次ぎもお手伝しています．1998年（Volume 7）からの年間購読の受付は昨年末から日本地質学会事務局の担当となりましたが，日本地質学会での購読者管理は，事務手続き上の関係で，現時点では，日本地質学会員のみを対象としております．それで当面の対策として，日本地質学会以外のThe Island Arc関連4学会（日本古生物学会，日本第四紀学会，日本岩石鉱物鉱床学会，資源地質学会）の会員のThe Island Arc購読希望者で，振り込みによる申し込みを希望する方には，当The Island Arc編集事務局まで購読料を振り込んでいただければ，当編集事務局で購読申し込みの取り次ぎを行うこととします．振り込みはバックナンバー申込用の以下の口座に当てて，連絡欄に「非地質学会会員，～学会会員（学生・院生・一般の種別），～年の購読料」と必要事項を明記していただくようにお願いします．年間購読料は，学生や院生に相当する人が6,000円，それ以外の人（ここでは一般会員として一括します）は8,000円です．なお，名前や住所にはふりがなを付けるとともに，連絡用の電話番号やE–mailアドレスもご記入ください．本ニュースをご覧の会員諸兄の周りに，地質学会会員以外の方で購読を希望される方がおられましたら，よろしくお伝え下さい．なおこの場合は，購読の自動継続にはなりませんので，購読を継続されたい場合は，毎年振り込みをしていただく必要があります．

日本地質学会非会員の年間購読申込先口座
郵便振替「アイランドアーク編集委員会　00310–8–1321」

先月号で4月末配布の予定とお伝えしていました1998年Volume 7, Issue 1/2合併号についてですが，昨年末に変更した印刷会社の不慣れによる作業の遅れと合併号の膨大なページ数が原因で，さらに印刷が遅れることになりました．現在のところ，従来のIssue 2の出版スケジュールにのる日程で，5月末の印刷終了，6月1週目の発送開始となる予定です．購読者の皆さんのお手元には6月末以降から到着すると思われますので，大変ご迷惑をおかけしますが，今しばらくお待ち下さい．なお，Issue 1/2の合併号の構成（目次）につきましては，ニュース誌3月号に掲載しております．

次号の特集号（Volume 7, Issue 3）につきましては，現在すでに入稿が完了し，順次タイプセットを行っています．ページ数はタイプセットが終了した段階で確定しますが，本年の年間ページ数がかなり限られていますので，特集号の印刷ページ数が確定した段階で最終号の紙面構成を再度検討する予定でいます．

これまでにもお知らせしてきましたとおり，年間ページ数600ページ・4号という限られた誌面の中で多くの特集号を出版することは非常に困難です．さらに特集号であっても原則として150ページ以内に紙面を限っていただくことにしていますが，それでも既に完成間近の特集企画が複数進行しています．全ての原稿が完成した段階で特集号として受理し出版計画に組み込みますが，年間2特集の大前提です．したがいまして，新たな特集企画の申し込みの段階では出版期日については何もお約束できないのはもちろん，ページ数についても150ページを越える上限については予測がつきません．特集が完成した段階で150ページを越えるときには，原則としていくつかの論文を特集からはずして単独投稿していただくか，超過分についてページチャージを支払っていただくことになります．また，完成が短期間で見込める特集を早急に出版されたい場合には，通常の査読を経て受理された特集を特別号「Special Issue」として出版費を編集者で支払っていただく事が可能です．この場合，雑誌の形態は通常号と全く同じとなりますが，編集委員会とBlackwell Scienceとの契約に書かれた年間ページ数600ページの通しページとは独自のページでその年のボリュームの一部として出版配布されます．まずは編集委員長とよく御相談の上，御手元に予算がある場合には御検討下さい．なお，1998年4月段階でのBlackwell Science社でのSpecial Issueの出版経費概算は以下のとおりです．

1号刷り上がり160ページの場合：A$20,000（ほぼ200万円）
編集，タイプセット，印刷，製本，現在の購読会員全員への郵送を含む．
通常以上の別刷（雑誌形態の合本など）は別途問い合わせが必要．

なお，通常の印刷スケジュールでは完成原稿の送付から最終印刷まで12週間が必要ですが，特別号の場合には通常号の作業と日程が一部重複する可能性があるため，さらに時間がかかります．また，申し込み以降，特集号の出版計画策定に4週間を見込む必要がありますので，原稿が完成してから最低5か月程度は必要です．特集号として出版するとしても，実際の配送までは半年はかかることになりますので，その点はよろしく御理解下さい．

なお，論文の投稿や雑誌の編集上のことでお聞きになりたいときは編集委員長まで，その他のいろいろな問い合わせ・ご意見・苦情等につきましては，気軽に編集事務局長までお知らせください．出張等で長期不在の場合もありますので，後者の場合は，宛先を連名でお送りくだされば幸いです．

The Island Arc**編集委員長**
小川勇二郎（筑波大学，電話 0298–53–4307, Fax : 51–9764,
E–mail : yogawa@arsia.geo.tsukuba.ac.jp）
巽　好幸（京都大学，電話 0977–22–0713, Fax : 22–0965,
E–mail : tatsumi@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp）

The Island Arc**編集事務局長**
徳橋秀一（地質調査所，電話 0298–54–3676, Fax : 54–3666,
E–mail: toku@gsj.go.jp）
渡部芳夫（地質調査所，電話 0298–54–3677, Fax : 54–3666,
E–mail: nabe@gsj.go.jp）

1998年度 新役員紹介

今回は細則等改正後の初の選挙でしたが，投票数1757（34％）が微増（＋150票）しホッとしているところです．改正事項の一つはこのお知らせです．これにより役員を身近に感じていただければ，投票率のさらなるアップにも繋がるのではと考えております．
（日本地質学会1998年度選挙委員会
委員長　辻　隆司）

会　長

小松正幸（こまつまさゆき）
（愛媛大学理学部）

日本地質学会は申すまでもなく地質学の進歩と普及を目的とした組織です．地質学が社会的にも研究教育の場においても極めて厳しい状況に立たされているとき，その維持と発展のために学会はあらゆる手を尽くさなければならないと思います．学会が果たさなければならない役割は重大であります．ここ数年，執行部，評議員会はそのために時代に即した改革と活性化を図るべく努力して来ましたが，その方向は大多数から支持され，徐々にその成果が実を結びつつあります．今後，地質学会の一層の発展のためにはグローバルな視点も必要です．幅広い視野と，前向きの姿勢で臨みたいと思います．

副会長

坂　幸恭（さか　ゆきやす）
（早稲田大学教育学部）

引き続き副会長を務めさせていただくことになりました．地質学の地位向上，地学教育の発展，本学会の財政的安定・活性化など，問題が山積していますが，会員の皆様ともども，その解決に向けて努力する所存です．

副会長

徳岡隆夫（とくおかたかお）
（島根大学総合理工学部）

多難な時期に副会長をお引き受けすることになりましたが，会長を補佐し，地質研連の活動とともに環境・災害などの面で地質学の社会的責任を果たすことに努め，もって地質学の地位向上に貢献したいと思います．

評議員

足立勝治（あだちかつじ）
（アジア航測株式会社）

私は会計委員会活動を通して学会運営の一部に関わってきました．その経験をふまえて，(1)学会の現状を広く会員に知らせること，(2)各種委員会活動の意見や提案を具体化・実行することに重点を置きます．

評議員

足立久男（あだちひさお）
（東京都立忍岡高校）

地盤災害，地下水や地層の汚染問題，地質学的なアプローチが必要な環境問題など，地質学が社会に果たすべき課題はたくさんあります．地質学の社会的地位向上と会員の声を大切にした学会運営のために力を尽くします．

評議員

赤羽久忠（あかはねひさただ）
（富山市科学文化センター）

急激に変動する現代社会に対応し，地質学の重要性が社会的に認められ，発言する地質学へと活性化するため努力したい．学芸員・教師や自治体に働く地質学会会員の研究条件改善にも努めたい．

評議員

板谷徹丸（いたやてつまる）
（岡山理科大学・自然科学研究所）

21世紀を担う地質学に貢献する放射年代学を確立することが私の使命と考えている．そのために，地域地質学・岩石学・鉱物学・構造地質学研究者との密接な関わりを持って精密年代測定を行う環境を整備したい．

評議員

磯﨑行雄（いそざきゆきお）
（東京大学大学院・総合文化研究科）

地質学の学問レベルが理系の他の分野から大きく劣らないように新しく魅力的な研究テーマを探り，有能な若年研究者を引き寄せられる学問環境をつくりたい．

評議員

永広昌之（えひろまさゆき）
（東北大学大学院理学研究科）

21世紀を迎えての転換期にあたり地質科学の地位の向上のために果たすべき地質学会の役割はますます大きくなっています．会員の多様な要求に応えつつ，地質学会の活性化と発展のために微力ながら働きたいと思います．

評議員

菊地隆男（きくちたかお）
（東京都立大学大学院理学研究科）

地質学会の発展のために微力を尽くします．また学会の民主的運営は学会発展の基礎となるものと考えます．そのために，長い間第四紀学会の運営に携わってきた経験が生かせれば，と願っています．

評議員

久保和也（くぼかずや）
（地質調査所）

地質学会が，会員各自にとって身近で有益な交流・研鑽の場としてより発展するよう微力を尽くしたいと思います．

評議員

公文富士夫（くもんふじお）
（信州大学理学部）

本学会が地質学の進歩の基礎を支えるという役割とともに，関連諸学会・研究会との連携を強化する方向を探りたい．また，歴史科学の側面を生かして環境問題などへの社会的要請に応える機能の強化を図りたい．

評議員

熊井久雄（くまいひさお）
（大阪市立大学理学部）

産業革命以来，地質学の果たしてきた社会的役割はこの数十年間に少しずつ変化していますが，その変化を見失なわないように，評議員会で責任を果たして行きたいと思います．

評議員

小泉　格（こいずみ いたる）

（北海道大学大学院理学研究科）

日本地質学会を取り巻く情勢は厳しいことを自覚し，国際対応ができるように改善しよう．「地質学」を狭義（勿論これが基底であるが）に規定しないで，諸学問分野を横断・束ねる総合・統合科学として捉えよう．

評議員

柴﨑直明（しばさきなおあき）

（国際航業株式会社）

現場で働くコンサルタントとして，国内外で地質学の果たす役割が重要であることを痛感しています．評議員2期目にあたり，地質学会の運営に会員の声が十分反映できるように努力したいと思う．

評議員

鳥海光弘（とりうみみつひろ）

（東京大学大学院理学研究科）

地学，地球惑星科学は旧来の体系を改変する時期に至っています．その大半を受け持つ地質学会は重要な責務を持つ大きな学会です．学問を常に新鮮にし新たな分野を開拓する学会に持っていくことを目標にします．

評議員

小出良幸（こいでよしゆき）

（神奈川県立生命の星・地球博物館）

博物館では地質学は大きな比重をしめるが，一般研究施設とは違って，研究だけでなく一般市民のために展示・普及をしなければならない．このような博物館の立場で地質学会に貢献していきたい．

評議員

田﨑和江（たざきかずえ）

（金沢大学理学部）

女性科学者がいきいきと研究が続けられるよう，研究環境の改善や研究条件の獲得につとめます．＜地球環境学＞の分野で，＜大気，水，土，そしてバクテリア＞のキーワードで研究と教育に情熱を持って取り組みます．

評議員

新妻信明（にいつまのぶあき）

（静岡大学理学部）

地質学会員の意向に反し，地質学に対する状況は悪化しているので，地質学会は体質を改善し，活発な活動を繰り広げる必要がある．地質学の発展とその成果を社会に還元できる着実な地質学会活動を実現したい．

評議員

佐々木和彦（ささきかずひこ）

（応用地質株式会社）

学問としての地質学の発展とともに，地質学の実社会への応用・貢献が必要とされています．日本地質学会はそのリーダーシップをとる使命があり，微力ながらお役に立ちたいと考えています．

評議員

高橋正樹（たかはしまさき）

（茨城大学理学部）

地質学の危機を乗り切るには，一般社会に根付かせる努力をするとともに，日本地質学会の足腰を強化するための諸改革が必要かと思います．会員間のコミュニケーションを円滑に進める体制の確立などに努めます．

評議員

別所孝範（べっしょたかのり）

（大阪府立八尾東高校）

今の教育現場では理科の中での地学の地位は依然として低い．しかし，その中で地学の教師達は個人的に奮闘している．こうした教育現場の生（なま）の声を地質学会に反映させ，地位改善の道をさぐりたい．

評議員

佐瀬和義（させかずよし）

（東京都立板橋高校）

地質学の「裾野」を広げるという観点で，なかでも地学教育に関わる問題について取り組みたい．現在，始まっている地質学会の組織改革については，その改革が会員全体のものになるように論議を広げる努力したい．

評議員

高安克己（たかやすかつみ）

（島根大学汽水域研究センター）

新しい地球科学の枠組みの中で，地質学は確かに大きな節目を迎えていると思う．会員の皆さんの意見を広く聞きながら，21世紀に通用する地質学の発展と社会的地位向上のため微力ながら貢献したい．

評議員

真砂英樹（まさごひでき）

（東京工業大学大学院理工学研究科）

院生諸氏をはじめ投票してくださった多くの方々のご期待に沿えるよう一生懸命頑張ります．僭越ながら，若い力で評議委員会を活気づけてゆきたいと思っております．変わらぬご支援のほどよろしくお願いします．

評議員

柴　正博（しばまさひろ）

（東海大学自然史博物館）

現在，日本地質学会をとりまく問題は多くあり，将来の学会運営のために，会員の多くの意見を取り入れ，いままでの先輩諸氏の蓄積も十分にふまえたかたちで，努力していきたいと考えています．

評議員

徳橋秀一（とくはししゅういち）

（地質調査所）

The Island Arcの普及や学会の発展のために，微力を尽くしたいと思います．皆様のご協力をお願いします．

評議員

吉田武義（よしだたけよし）

（東北大学大学院理学研究科）

火山部会での活動などを通して，我々が日々体験しているGeological Scienceの魅力を，次世代を担う若い人たちに伝えることが出来れば，と考えております．

執行委員会だより

1998年度第2回執行委員会

1998年4月13日（月）13：30～18：00に日本地質学会事務局において行われました．出席者は足立勝治執行委員長，天野一男・磯﨑行雄・久保和也・佐々木和彦・滝田良基・高橋正樹・鳥海光弘各執行委員，斎藤靖二前執行委員長，徳橋秀一・中田節也・新妻信明・丸山茂徳各前執行委員および水野篤行事務局長でした（欠席者は木村　学執行委員，嶋本利彦前執行委員）．

同委員会では，主に前年度執行委員との引き継ぎを行い，その他1997年度第4回定例評議員会での議決事項を中心に，以下の審議がなされました．

1. 執行体制整備委員会関連の新委員会としての会則・運営細則等検討小委員会および組織運営検討委員会の構成原案を検討し，第3回執行委員会の審議を経て，第2回定例評議員会に諮ることにしました．
2. 事業計画委員会関連の新委員会の名称および委員会構成の原案を検討し，第3回執行委員会の審議を経て，第2回定例評議員会に諮ることにしました．
3. 財政問題検討委員会の改組については，審議の継続性を重視した改組原案を検討し，第3回執行委員会の審議を経て，第2回定例評議員会に諮ることにしました．
4. 選挙委員会の委員について，各支部に対して，第3回執行委員会までに候補者推薦の依頼を行うこととした．
5. The Island Arcの執行委員会での本年度窓口を第二庶務委員会が行うこととし，徳橋秀一The Island Arc編集事務局長より，従来の経緯や，①購読受付・手続き，②日本地質学会会員以外からの購読申し込みの受付，③文部省補助金の3点についての説明がなされ，関係する執行委員で継続して検討することにしました．
6. 文部省登録情報センターより学術情報センター電子図書館事業への参加協力依頼があり，情報公開の観点から参加協力を行う方向で検討し，第2回定例評議員会で承認を求めた上で手続きすることにしました．
7. 次回の第3回執行委員会を1998年5月18日（月）13：30から，日本地質学会事務局で行うこととしました．

1998年度日本地質学会会長・副会長および評議員

会　長　　小松　正幸（任期2年）
副会長　　坂　　幸恭・徳岡　隆夫（任期2年）
評議員（1998年度まで）

秋葉　文雄	赤羽　貞幸	天野　一男	上砂　正一	飯川　健勝	氏家　良博	川辺　孝幸
木村　　学	小井土由光	小林　和宏	斎藤　靖二	酒井　治孝	嶋本　利彦	田結庄良昭
平　　朝彦	高須　　晃	滝田　良基	巽　　好幸	那須　孝悌	楡井　　久	野村　　哲
堀川　秀夫	丸山　茂徳	八尾　　昭	芳野　　極			

（任期　1999年度まで）

足立　勝治	足立　久男	赤羽　久忠	板谷　徹丸	磯﨑　行雄	永広　昌之	菊地　隆男
久保　和也	公文富士夫	熊井　久雄	小泉　　格	小出　良幸	佐々木和彦	佐瀬　和義
柴　　正博	柴﨑　直明	田崎　和江	高橋　正樹	高安　克己	徳橋　秀一	鳥海　光弘
新妻　信明	別所　孝範	真砂　英樹	吉田　武義			

1998年度第2回定例評議員会のお知らせ

標記評議員会を下記のように，6月20日（土）に開催いたします．傍聴希望の方は6月10日（水）12：00までに執行委員会宛，氏名・連絡先を記入した申請書をご提出ください．

1998年度第2回定例評議員会
日　時：1998年6月20日（土）12：30～18：00
場　所：早稲田大学国際会議場第2会議室

日本地質学会ニュース読者の皆さまへ

新しい日本地質学会*News*をご覧いただいた皆さまのご意見をお待ちしております．地質学会事務局またはニュース担当宛に，ニュース誌でお読みになりたい情報や記事などのご要望，掲載記事や企画へのご意見など，ファックス・電子メールでお送りください．また，ニュース誌の表紙を飾る地球科学的な写真のご投稿もお待ちしています．

なお，いただいたご意見はニュース誌に掲載させていただく場合がありますので，ファックスでご意見をいただいた場合には追ってフロッピー等で原稿をお送りいただければ幸いです．

日本地質学会編集事務局　Fax：03-5256-5676　E-mail：geosocjp@ra2.so-net.or.jp

日本地質学会　〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 1-10-4　丸石ビル4階　電話 03-3252-7242
Fax 03-5256-5676　E-mail : geosocjp@ra2.so-net.or.jp　ホームページ http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/gsj/